

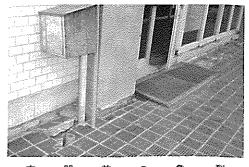
浦河町立浦河小学校



校舎の被害状況(一)



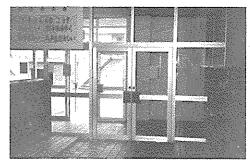
玄関横の地面のようす



玄関前の亀裂



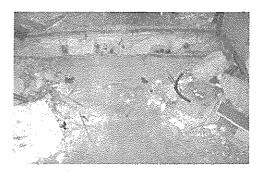
玄関ホールのガラスの破損



玄関ホールのガラスの補修 (紙のはってあるところが補修した部分)



校舎前面のガラスの補修 (紙のはってあるところが補修した部分)



2 F 横線縦線校舎のつなぎ部分

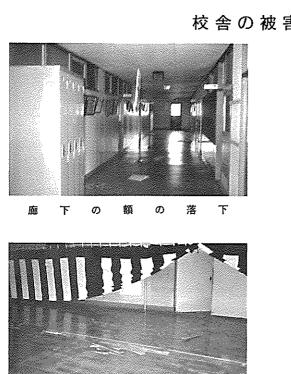


1 F つなぎ部分の天井

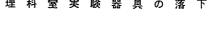


1 Fっなぎ部分の床

校舎の被害状況







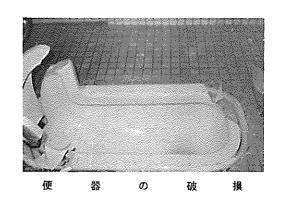


か り













——《 目 次 》——

浦河沖地震に対する父母の行動と意識に関する調査 五	浦河沖地震に対する児童の行動と意識に関する調査 四	浦河地震に対する父母の感想文	浦河沖地震に対する児童の感想文 十	に対する考察 七親と子の浦河沖地震における行動と意識の調査結果	浦河沖地震の教訓 四	浦河沖地震による被害の概要 三	浦河沖地震の記録 一	浦河沖地震からの指針	浦河沖地震の教訓を生かすために 一	
		九		七	17.71		*******			

浦河沖地震の教訓を生かすために

湘河町立湘河小学校長 岩田 毅

境の中で迎えるととができることになりほっとしています。でした。当日児童が登校していたら恐らくパニック状態におちいったのではないかと思われますが、連体初日で休みであったことがせめてもの救いでした。過去の地震からストーブやガスの始末なども適確に行われて、大きな二次災害が起きなかったととは不幸中のさいわいでした。学校も横線校舎と縦線校舎のつなぎ部分の龟裂と段差、ガラスの破損など大きな被害を受けましたが、屋体、放送機、水洗便所などが使用不可能な中で、二四日は玄関ホールで終業式を終えました。最が使用不可能な中で、二四日は玄関ホールで終業式を終えました。最後本格的な補修工事が七月下旬に終り、第二学期からは整えられた環後本格的な補修工事が七月下旬に終り、第二学期からは整えられた環境の中で迎えるととができることになりほっとしています。

三月二三日、地麓後始めて登校した児童に、貴重な体験を今後の生活の中に生かしていくための機会として特別カリキュラムを組み、学練の中に生かしていくための機会として特別カリキュラムを組み、学練した児童にとっても生涯忘れることのできない思いでになっていかか、浦河沖地震を体験した児童にとっても生涯忘れることのできない思いでになっていかり、浦河沖地震を体験した児童に、貴重な体験を今後の生三月二三日、地麓後始めて登校した児童に、貴重な体験を今後の生

ところです。
地震災害に対する教訓としたいと考えてこの小冊子の発刊を計画した地震災害に対する教訓としたいと考えてこの小冊子の発刊を計画しためったに経験することのできない貴重な体験を記録に残し、今後の

浦 河 沖 地 腥 から の 指 針

北海道教育庁日高教育局長 雨 海 重

民が体験したことのない震度六を記録し、震源地が浦河沖地下十キロ は、 きつくものとなりました。 であったところから「浦河沖地震」と名づけられ町民の脳裏に強く焼 どのものではありませんが、本年三月二十一日に発生した地震は、町 い町であり、震度二~三は日常茶飯事のものとして、町民の驚ろくほ ての度、浦河小学校が地**緩体験記録の発刊を手がけられました**とと 大変意義あるものと考えます。 浦河町は、 本道の中でも地震の多

全国的にも高く評価されております。 発生時の行動がいかに適切であったかを示すものであり、このことは が、一人の死者もなく一件の火災も起きなかったことは、 多くの傷跡を残した地震でした。しかし、大型の地震ではありました ほか、余霞が続く不安な毎日、水不足で悩んだ生活など、精神面でも 鉄道や道路の欠壊、学校や家屋の破損など物的な被害をもたらした 町民の地震

多くの方々の目に触れることを望み発刊に寄せることばとします。 との取るべき行動の指針として役立つものと言えます。 校でまとめられますことは、再びこのような地震が起きた折の、人び す。貴重な体験から学んだ教訓を、児童の声、父母の声をも含めて学 ておりますが、天災は、またいつ来るか予測しがたいものでもありま 地震が治まってから、町民は、大人も子供も復旧に力を出し合い、 一部の道路を残して復旧は進み烈震の傷跡も消え去ろうとし との記録が、

浦 河 沖 地 展 の 記 録

浦河町数育委員会教育長 ۲ 部

弘

とに深く敬意をもつものであります。 生きた校史、町史の一ページとして極めて意義ある冊子となりますと しておりますことは、ひとり地震の教訓としてのこるばかりでなく、 を得た教育的な仕事として高く評価したいと思うのであります。しか 震の教訓、と題して冊子を刊行することになりましたことは誠に時宣 彼方へと押しやってしまうものと考えます。それは丁度、三十年前の も、在学児童のみならず父母の参加も得まして内容に一層の充実を切 いるにとどまっているととを考えれば理解できるわけであります。 十勝沖地震が、そうであるようにただ生存する者の何人かが記憶して しかし、時と共に人々の心は、あの恐怖をうすれさせ、やがて忘却の 恐るべき天災として老幼を預わず永く記憶にとどまるものと思います。 の規模においても被害においても未曽有のものがあり町民にとっては とのような意味から考えまして、この度、 昭和二十七年三月二十一日の浦河町を中心に襲いました地設は、そ 浦河小学校が、浦河沖地

方々ので協力を労い、ご挨拶といたします。 本冊子の刊行にあたりど尽力されました校長先生をはじめ教職員の



浦河沖地震による被害の概要

浦河町立浦河小学校

害 総 額 一五三九七,000円

被

ガ 舍 ラ 災 ス 復 害 旧 復 I 旧 事 工 事 ::::: 10000日日 1.0 < 0.0 0 0

円 円

校

内

訳

(複層ガラス二三枚(板ガラス三粍一一枚(型ガラス四枚)

キスパンション他工事 ・・・・・・・・・・・・・・・ 一、一九0′00円

I

(エキスパンション=横線校舎、縦線校舎

のつなぎ部分、その他)

柱 鼅 校 気 舎 設 復 üli 復 復 旧 旧 旧 I エ 工 事 41 事 汽四 Ħ. 22 Æ. -1::: Æ. 0′0 0 0,0 = 0 \bigcirc 0 0 円 円 四

(亀裂ミール注入補修 ガラスブロック取

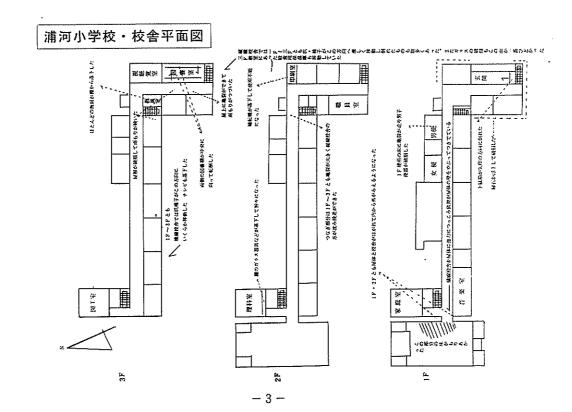
、外壁タイル、便器取替、配水管補修、玄関ポーチ、屋上遊び場、屋根の一

緑石取替 その他)

備 水 밂 泳 購 プ Ī 入 及 ル 復 補 旧 修 工 工 事 事 *********** 七六五〇〇〇円 八八九〇〇〇円

(輪転機 携帯用拡声器 日本全図立体地図

地球儀大・小 カラーテレビ カラーテレビ修理)



浦河沖地震の教訓

浦河町立浦河小学校長 岩田

毅

年教員として就任以来、四〇年余にわたる学校生活の中で、昭和二七忘れようとしても忘れるととのできない震災の悪夢でした。昭和一七昭和五七年三月二一日午前一一時三二分頃に発生した浦河沖地震は

年三月四日の十勝沖地震、昭和四三年五月一六日の十勝沖地震、

同年

が多く、発生時刻が昼食前であったため、ガスの使用件数が少かったが多く、発生時刻が昼食前であったため、ガスの使用件数が少かったの中で何人かのけが人がでたのではないかと思われます。当日が休日の中で何人かのけが人がでたのではないかと思われます。当日が休日の中で何人かのけが人がでたのではないかと思われます。当日が休日の中で何人かのけが人がでたのではないかと思われます。当日が休日の中で何人かのけが人がでたのではないかと思われます。当日が休日の中で何人かのけが人がでたのではないかと思われます。当日が休日の中であったことは幸でした。当日が日曜日であり、朝食の遅かった家庭であったことは幸でした。当日が日曜日であり、朝食の遅かった家庭であったことは書いた。

災に対する認識の甘さを知らされた感じです。

震記録となっています。地震の多発地帯とはいいながら、今までの震れていますが、これは北海道では初めて、全国的にも戦後三度めの地地震はマグニチュード七・三と推定され、震度六の烈震として記録さくあいましたが、震度六の烈震は初めての経験でした。今回の浦河沖九月二二日の浦河沖地震と、震度三から五を記録した地震に何回とな

にくいとめることができたものと思われます。いろな要因が重なりあって、強い震度にもかかわらず被害を最少限度ととも幸いし、過去何回かの地震による教訓が生かされるなど、いろ

内放送が使用できないため、二三日に震災後はじめて登校した児童に 理したあと、特別カリキュラムを編成し、屋内体育館、 二二日は全教師の手によって、廊下のガラス破片等危険区域のみを整 されて校内放送も不可能でした。このような状態の中で、 を児童の地震に対する実地教育の機会として教材化する。 ことを考え、 洗便所は使用停止、校舎のつなぎ部分で校内配線がすべてこれも切断 など、惨憺たる状態でした。水道管が何ケ所も切断されて水飲場、水 子用大便器、職員用机の引出しがすべてあいたまま移動している状況 リングがもりあがった屋内体育館、床の亀裂にそって破損している男 の破片、すべての教具が床に破損、散乱している教具室、床のフロ 対して、学級指導、校内見学を実施しました。 図書棚の転倒、理科室の棚から落下して床一面に散乱したガラス器具 烈と段差、つなぎ部分の天井に無気味にぽっかりとあいた穴、靴箱や たガラスの破片、横線校舎と縦線校舎のつなぎ部分にできた大きな亀 地震直後の校内は、 足の踏み場もないほどに玄関の床一面に散乱し 水洗便所、校

学級指導の内容

二、児童、父母のけがの状況常に最悪の状態を考えて対処するととが大切である。は限らず、震災は予想のできないところにおそろしさがあり、一、地震のおそろしさ……地震はいつも震度三~五程度のものと

三、学校の受けた被害状況(実地見学とあわせて行う)……緞校二、児童、父母のけがの状況

玄関前化桩コンクリートの破損など。机、椅子の移動、転倒状況、床や壁の亀裂、便器の破損、断水が、椅子の移動、転倒状況、床や壁の亀裂、便器の破損、断水が、椅子の移動、転倒状況、床や壁の亀裂、便器の破損、断水

四、地震に対する対応の心がけ

- との大切さ ☆ 冷静な判断にたって行動し、生命の安全を第一に考えると
- ら行動することの必要性に行動することの必要性にあって外へ避難することは危険であり、ようすをみなが
- 高い所から物がおちたり、蛍光燈などがおちる場所はさけ
- | 難することの必要性 | 家具も転倒のさいは凶器になるので、ゆれ方などをみて避
- 便所(大便)にいた場合はその場でようすをみることの必要しゃがんでようすをみた上、一番近い教室へ避難することようすをみること 遊び時間に廊下にいた場合は、その場にようすをみること 遊び時間に廊下にいた場合は、その場にみること、屋内体育館にいた場合、窓から離れてしゃがんでようすを

多くは、あわてて行動した結果。ガラスの破片できずをおった五、先生の指示に従うことの大切さ……過去の地震による被害の

つつしむべきととが大切である点を強調する。対に必要である。また、泣声をあげたり、さわぎたてるとともは先生、家庭では父母や兄姉の指示に従って行動することが絶という例がそのほとんどである。このような点からも、学校で

は子ども達だけで留守番させていた家庭もありましたが、ゆ電するまで地震なり、映画館にいた児童も多数おりましたが、停電するまで地震なの中にそのままいた者、外へ避難した者とまちまちでした。 中になって、名家庭にいた児童は、それぞれの家庭の日常生活に従って、家の中にそのままいた者、外へ避難した者とまちまちでした。 中には子ども達だけで留守番させていた家庭もありましたが、停電するまで地震る日常のしつけが生かされ、一番先にストーブのスイッチを切った例る日常のしつけが生かされ、一番先にストーブのスイッチを切った例る日常のしつけが生かされ、一番先にストーブのスイッチを切った例る日常のしつけが生かされ、一番先にストーブのスイッチを切った例る日常のしつけが生かされ、一番先にストーブのスイッチを切った例の中心を表示されました。

主眼をおいて実施してきました。

主眼をおいて実施してきました。
か、集合煙筒がくずれる等の被害がみられ、状況によっては避難するがありました。しかし、現在は鉄筋造りの校舎で耐震構造になっていますので、よほどのことがない限り避難させる方がかえって危険であるという判断にたち、本校は年間二回の地震対応訓練を次の点にであるという判断にたち、本校は年間二回の地震対応訓練を次の点にであるという判断にたち、本校は年間二回の地震対応訓練を次の点にであるという判断にたち、本校は年間二回の地震対応訓練を次の点に対応が表した。

- ・先生の指示に確実に従う
- 落ち着いて行動し、むだ話をしない
- 先生の指示で机の下に避難する

しかし、今回の浦河沖地震の結果からすると、次の点で大きな問題

が残されているように思われます。

・屋内体育館、遊び時間等その場に応じた細部にわたる対応策が必・指導にあたる教師の自己管理をどうしていったらよいのだろうか

要である

高元で意識化を図っていくことが大切であると思います。 「静かに!」と一喝して落ち着かせましたが、単に災害への大力な場合にはどうなるのだろうと考えさせられました。実際にはなって静かに!」と一喝して落ち着かせましたが、果して今回の地震す。「静かに!」と一喝して落ち着かせましたが、果して今回の地震す。「静かに!」と一喝して落ち着かせましたが、果して今回の地震が内放送も使用が不可能になることが予想されますので、教師の自己を内放送も使用が不可能になることが予想されますが、教師としては不十の対応ということだけではなく、日常の学校経営のあらゆる機会をとの対応ということだけではなく、日常の学校経営のあららる機会をとの対応ということだけではなく、日常の学校経営のあらゆる機会をとの対応ということだけではなく、日常の学校経営のあららる機会をとらえて意識化を図っていくことが大切であると思います。

施設、設備の面では、次の点について計画的に改善を図っていきた

いと考えています。

転倒をふせぐためには有効であると考えられます。要があります。衝撃を暖和するためには、車付で移動可能なものが一、図書棚……幅のある車付のもので安定度の高いものに更新する必

とが有効であると考えています。これの自動であると考えています。ステンレステーブルにはボール紙を敷くといいと予定しています。ステンレステーブルにはボール紙を敷くといれる事はんが、現状では他の方法をみいだすことができません。これいと予定しています。ステンレステーブルにはボール紙を敷くとれいと予定しています。とが有効であると考えています。とが有効であると考えています。

加えていきたいと考えています。います。具体化の段階で、教具の種類によって更に検討し、工夫を四、教具室……理科室の棚と同様、やはりさんで転落防止を予定して

とも更に検討を加えていかなければならない問題も数多く残されていとも更に検討を加えていかなければならない問題も数多く残されていたうなのか、全校集会のような場合パニック状態におちいるのではないだろうか、水や電気が使用不態におちいった場合の対策はどうなのか、全校集会のような場合パニック状態におちいるのではないだろうか、水や電気が使用不態におちいった場合の対策はどうなのか、全校集会のような場合パニック状態におちいるのではないだろうか、水や電気が使用不態におちいった場合の対策はどうなのか、全校集会のような場合パニック状態におちいるのではないだろうか、水や電気が使用不態におちいった場合の対策など、今後いだろうか、水や電気が使用不態におちいった場合の対策など、今後いだろうか、水や電気が使用不態におちいった場合の対策など、今後いだろうか、水や電気が使用不態におちいった場合の対策など、今後におうなのか、全校集会のような場合パニック状態におちいるのではないだろうか、水や電気が使用不態におちいった場合の対策など、今後とも更に検討を加えていないますが、大五〇名のとも更に検討を加えている。といわれていますが、大五〇名のとも更に検討を対象を表する。

ます。

ないと思います。

されているのか等、改めて経営の見直しを行っていかなければならば、教師の自己管理が生かされた、教育変にもとずく行動が自然にではあるような体制づくりが大切であることを考えさせられました。日常指導の中で教育の本質をどのように追究しているのか、教師の意識がどのように変革されているのか、教育を協業として取り組む指導体がどのように変革されているのか、教育変にもとずく行動が自然にでく、教師の自己管理が生かされた、教育愛にもとずく行動が自然にでけたれているのか等、改めて経営の見直しを行っていかなければなら、教師の自己管理が生かされた、教育変にもとずく行動が自然にでけた。

一日発売)に掲載された原稿に一部手を加えたものです。これは第一法規発行の「学校経営・六月号」(昭和五七年六月



行動と意識の調査結果に対する考察親と子の浦河沖地震における

母の回答者のうち、母親が八一パーセントをしめており、家庭内にており、浦河地震に対する関心の深さをうかがうことができる。父、回答数は父母九三パーセント、児童九六パーセントと高率を示し

おける父母と子どものかかわりあいについても考えさせられる。 おける父母と子どものかかわりあいについても考えさせられる。 おいといわざるを得ない。 はいしていた。 と答えたもののうち、 親が一八パーセント 子どもが一 とでいた。 と答えたもののうち、 親が一八パーセント 子どもが一 していた。 と答えたもののうち、 まが一八パーセント 子どもが一

子 ど も の 行 動

T. 11 90% KU 12 4 月 自 D ないた 6 月 月 日 ないた 6 月 月 日 ないた 7 日 な

次のような特徴がみられる。三、地震発生と同時にとった行動は、親子ともほぼ一致しているが、

烈震の規模の大きさをもの語っている。 た゛)と答えた項については親子とも高率を示しており 今回の↑ ゜~そのまますわっていた゛(親の場合は゛まったく動けなかっ

最少限にくいとめることができた理由としても評価できる。からある程度習慣化しているとみることできるし、第二次災害を子とも高率を示しており、このことは、過去の地震に対する経験は、"ストーブの火を消した" "ガスをとめた"項については、親

ているが、過去の地震の経過からとっさにとった行動であろうとについて「親の場合七パーセント」子どもで二パーセントをしめ曰:"物をおさえていた』(親の場合』家具をおさえていた』)項

対 象(%) 内 容	子ども	父母
ストーブを消した	34	50
ガスをとめた	12	18
玄関や窓をあけた	20	9
すぐ外へでた	12	4
机やテーブルの下へもぐった	8	0
そのまますわっていた	4	4
物をおさえていた	2	7



いる。

ガ

きである。

きである。

は度が子どもの行動に大きな影響をあたえている現実に注目すべきが、今回の地震の教訓として、人命第一の考え方について再検合からおろした。と答えたものもおり、親の地震に対する対応の合からおろした。と答えたものもおり、親の地震に対する対応のおしている。しかし、烈震の場合、果してこのことが有効なのかど

本能的な子どもの意識」と、明確に両者の立場の違いを示していもや家を守ろうとする親の意識」と、「自分の身を守ろうとする下へもぐった。などの項については、同じ避難の仕方でも「子ど、、《奴閃や窓をあけた》、《すぐ外へでた》、《机やテーブルの

一人、父母も骨にひびのはいった者が一人と最少限の被害で終ってた数を示すにとどまっており、その中味も、子どもで小指の骨折がえた者は子どもで九パーセント、親で一○パーセントとごく限られ、補河沖地震は烈震であったにもかかわらず、『けがをした』と答安全な対策であるかどうかは検討の余地があろうと思われる。

りまく物的環境によっても違いはあるが、烈震の場合、必ずしも

るとみることができる。〝すぐ外へでた〟項については、

四

父母のケガイファイ、家財の被害アイ、家財の被害アイ、したたた。 建物、家財の被害アイ、できなかった

子どものケ

* という質問に対して、親子とも同じ傾向を示しており、地震に対か、 *地震に対して、日常子どもにどんなしつけをしていますか五、 *ふだん、地震に対して父母からどうしなさいといわれています

活の中に定着しているとみることができる。

かがうことができる。しかし、『すぐ外 するしつけが行きとどいていることをう

へでなさい。

"すぐ外へでないでよう

震対

7

策

地

内容 対象(%)	子ども	父母
ストーブの火を消しなさい	3 7	76
ガスをとめなさい	91	47
すぐ外へでなさい	12	3 1
外へでないでようすをみなさい	0.3	4
机やテーブルの下へもぐりなさい	3 0	16

場所をきめてある。という対策について れる、 指導が行われることがのぞましいと思わ り烈震等、常に最悪の想定にもとずいて はなれっとになっているとはいえ、やは ている、震度三、四程度の地震について いるととについては検討の余地が残され にしなさい。と相反する指導が行われて おさえなさい。 すをみなさい、のほか、"物(家具) 我が家の物的環境をもとに、避難 物をおさえないよう

に対しては、九六パーセントのものがそれぞれの対策をあげており は二パーセントと数は少いが有効な方法として評価できると思う。 びどとにガスの元栓をしめるようにしている。など、 置かない。 後の生活に対して教訓を残しているのも大きな特徴である。その他 答えたものが五〇パーセントに達しており、烈震の経験をとうして ととができる。対策のうち、"家具を倒れないようにしてある"と "針金では役にたたない *貴重品や非常用品の持ち出しを準備してある。 地震多発地帯の生活の知恵がくらしの中に生かされているとみる *地震に対して、日常どのように心がけていますか、という質問 家具の上など高い所へ物を置かない。 ひもでしばることが有効である。と、 *寝室に家具を 地震対策が生 が使用のた

> ア、し τ () イ、特にしていない

为 象	%
家具をしばってある	5 0.7
貴重品の持ち出しを準備	3 7.3
非常用品持ち出しを準備	2.9
火やガスのしまつが第一	2.6
髙い所へ物を置かない	2.5
身の安全が第一	1.4
寝室に家具を置かない	1.3
その都度ガスの元栓をしめている	1.3

る

地震のうわさ 子ども 7 父 哥 じ た じなかった 信 半 疑 信信半 ア、間 ķ た ア、イ、ウ、 イ、聞 かな 聞いたことがある。と答 が三二パーセント 親で て、子どもも親も八○パ わさが流れたことに対し えているが、そのうち、 "信じた" ものは子ども セント以上のものが

六パーセントをしめてお が子どもで三四パーセン 親で六二パーセント *半信半疑*のもの

もっと大きい地震があるだろう というう

ţ

浦河沖地震のあと、

の必要性が痛感させられる。 「適切な判断力」を培うことをしめ、「信じなかった」ものは子ども大部分のものが半信半疑で不っている、ラジオやテレビ、新聞などについて考えさせられる点が多く、「れる場合の広報車の役割などについて考えさせられる点が多く、「れる場合の広報車の役割などについて考えさせられる点が多く、「れる場合の広報車の役割などについて考えさせられる点が多く、「信じなかった」ものは子どもで三四パーセント 親で三の必要性が痛感させられる。

とおり親子で多くの共通点がみられる。
(父母)」の項をみると、パーセントの高い六点を比較すると左記のい点(児童)」、『これからの地震対策について参考になった点へ八、今回の浦河沖地震の経験をとおして『これから気をつけていきた

H、子どもの場合

- ストーブやガスを消すように心がけたい
- []) すぐ外へ出るのは危険、ようすをみて行動するようにしたい
- 落ち着いて行動し、さわがないようにしたい
- 密全な場所を選び、けがをしないようにしたい
- (五) 落ち着いて、父母や大きい人の言うことを聞くようにしたい
- ☆ 机やベッドの下へもぐるようにしたい

口、父母の場合

- 火やガスを消すことが大切である
- あわてて外へ出るととは危険、むしろ家の中の方が安全であ
- (ii) 家具が倒れたり、蛍光灯が落ちたりしない部屋を確保するこ

- 窓具の上に物を置いたり、積みあげたりしないことが必要で
- (五) 戸や窓をあけて待期することが大切である
- 感じで、これからの災害に対する対応策として生かされていくもの過去の地震の経験が浦河沖地震の体験をとおしてしめくくられた(会)やかんやポリタンクで水を確保することが大切である

と思われる。

は、今世間が、食べ物、急救箱などを準備するように心がけたい(子でも)、等は災害に対する心がまえの基本になるものであり。 で間の対策を検討する必要がある(父母)、等の意見は、今を与えない毅然とした態度が大切である(父母)、等の意見は、今を与えない毅然とした態度が大切である(父母)、等の意見は、今を与えない毅然とした態度が大切である(父母)、等の意見は、今を要づけとして、今後の住民活動のあり方に疑問を投げかけているを裏づけとして、今後の住民活動のあり方に疑問を投げかけているを裏づけとして、今後の住民活動のあり方に疑問を投げかけているを裏づけとして、今後の住民活動のあり方に疑問を投げかけているを裏づけとして、今後の住民活動のあり方に疑問を投げかけているを裏づけとして、今後の住民活動のあり方に疑問を投げかけているを裏づけとして、今後の住民活動のあり方に疑問を投げかけているを裏づけとして、今後の住民活動のあり方に疑問を投げかけているを裏づけとして、今後の住民活動のあり方に疑問を投げかけているを裏づけとして、今後の住民活動のあり方に疑問を投げかけているとした。

今までの地震では感じられなかった点について、・地震がこんなにる恐怖心をものがたっている。『今までの地震とは違って、とっても恐しかった』が四二パーセントで、この両方をあわせると五一パーセントをしめ、在校生の半数以上がその恐しさを訴えている。また、とのである。「今までの地震とは違って、とって、児童の浦河沖地震に対する感じ方は、単的に震度六の烈震に対す



- 七がつ三か どよう

あしたも がんばろうすが とても かわいいです。うさぎに まけないようにあります。ときどき うさぎに くさを やりに いきまがっこうへ いく みちの とちゅうに うさぎごやがんこうへ いく みちの とちゅうに うさぎごやが

— 七がつ十五にち もくよう

いました。した。そうすると いしばしくんが 「まいった」と いられて ばんつが ぬれました。ぼくも みずを かけまかわ あそびで ぼくは いしばしくんに みずを かけ かわ あそびで ぼくは いしばしくんに みずを かけ

七がつ一たち もくようし

びき うまれましたが 一ぴきだけに しました。三と おもっていたら めすで といぬを うみました。三ぼくの うちの いぬは 「やま」と いいます。おすだぼくの うちの いぬは 「やま」と いいます。おすだ



書きましたので、 が卒業式、二十三日が修業式でした。この感想文は五月の初旬に 児童の感想文の中から、 沖地震は昭和五十七年三月二十一日でしたが、その前日の二十日 実際に地震を経験したのは、 各学級二点ずつ選定したものです。 現在の前の学年に 浦河

在学していた時になります。

河 お きじ し W ***

浦

二ねん きはら すすむ

どっこをしていました。

ていました。つぎの日、 テレビを、見ると、がけくずれや、おうちの中がめちゃくちゃになっ むのうちがつぶれてるかもしれないぞ」といいました。 びっくりして いちゃんのうちにかえると、「たいへんだ。浦河おきじしんだ。すす のとき、しんどうが背になりました。おかいものを、おわって、 はしがおれて川におちないかなあ」とこわくなりました。ちょうどそ 行きました。つぎの日、さっぽろに行き、十九じょうばしに、きたと をかたづけました。 よりひどかったです。お母さんが、ないたので、ぼくは、 ゅうも、ぐらぐらして、じしんにあいました。ぼくとお母さんは、 き、しんどうは、赤でした。そしたら、はしが、大きくゆれ、でんち 「えらいね」とほめられました。とくにすごかったのは、おとうさん 浦河おきじしんのまえに、 「へやをかたづけたよ」といったら、 かえって見るとうちの中は、テレビで見たの えにわのおじいちゃんのうちにとまりに 自分のへや お母さんに おじ

> す。 ちちゅうであばれるのだろうか。じしんには、もうあいたくないで ならんでいました。じしんはどうしておとるのだろうか、なまずが がきて、ぼくと、お父さんは、水をもらいに行きました。たくさん さらなどが、われていました。こわれたものを、たくさんすてまし のへやで、タンスや、本ばとが、たおれていました。だいどころも、 ぼくのおもちゃも、ステレオもすてました。夕がたにタンク車

力× た じ しん

**** ے 二ねん たつしま

三月二十一日わたしは、おくのへやで、妹や、おとうとと、

お

をみると、かおがまっさおで、なきそうでした。 さんに、「つくえの下に、入りなさい」と、いわれました。 んだんひどくなって、ガチャンガチャンと音がしました。おとうと おとうとと、二人でつくえの下に、はいりました。 つくえの下を見たら、本ばとの本が、いっぱいおちていました。 ちょっとゆれたので、びっくりして、 ちゃのまに行くと、 ゆれるのがだ ぉ かあ

わたしも、ドキドキしていました。

ý をきて、おもてに、でられるように、したくをしていました。ほ テレビの、 は、 おかあさんが「でてきてもいい」といったので、ちゃのまをみた はんぶん、かたむいていて、いまにも、 さらや、コップ、ちゃわんが、われていました。 ニュースで、つなみけいほうが、でていたので、コート たおれそうでした。 れいぞうと N

とうに、こわかったです。もう地しんなんかこないほうがいいです。

じしんのとき*

二ねん いわき みわ

やです。

しょを、きめました。でも、やっぱりじしんはいやです。 ないけどなきませんでした。」 こんどじしんになったら、かくれるば たのでみわは、いすにつかまっていました。「なきたいぐらいおっか た。学校のしょくいんしつとげんかんのガラスが、われました。じし のはいったびんがわれたあと、ガラスのにんぎょうケースがわれまし の中のコーラーのびんがなんぼんもわれました。うちは、イチゴしゅ 村山さんのうちは、おみせのたなのものがおちてきたり、れいぞうと のうちはすどかったけれど、うちと村山さんはだいじょうぶでした。 たらじしんがきました。せんせいが、「だいじょうぶだよ!」といっ んのときはきょうかいにいました。せんせいのおはなしを、きいてい うらかわで、はじめてのじしんがきました。しんど六です。みんな

二ねん

ただ じゅん

うちにかえると、いえじゅうが、ガラスなどがおちていてうちにはい じしんがきてえがきえました。ひじょうぐちからにげようとしたら、 とき、うちのガラスやかべなどが、ひびがはいったりしていました。 おされてしまいました。そしたら、えんとつがたおれました。かえる うらかわおきじしんのとき、えいがかんにいましたが、きゅうに、

> くなっていました。とてもおそろしくて、もう一回きたら、すどくい で、ぼくと、おにいちゃんがてつだいました。ちゃわんがほとんどな れなかったので、車の中にはいっていました。きれいになってきたの

浦 河 お きじし

二ねん なるせ よしのぶ

んこぶを つくりました。 りました。おにいちゃんは、足をきりました。ぼくは、あたまに た。おかあさんは、われた しょっきが おちてきて、目の上を んど六のじしんがきました。おとうさんが 手を ガラスできりまし 日ようび さっぽろからきたともだちと あそんでいるときに、し

かったです。 えのかどにきずがつきました。ストーブがつかなくなり とてもされ もいっしょうけんめいかたづけました。たんすがたおれてぼくのつく たどたでした。おとうさんも おかあさんも おにいちゃんも ぼく うなっていました。びよういんからかえってみると いえの中が あわてて びょういんへ いくと けがをした人が たくさんいて

んがたべれるようになりました。けれども おちゃわんを きゅう水車がくると、みんなではこびました。水がきたので、ごは 水がでなくなったので しょくじも そうじも できませんでした。 わったの

えの上においてねました。 さゅうきゅうばてを 二だんベットのはじにおき、ヘルメットをつくたので ぼくとおにいちゃんは、トイレにいくのも こわかったです。で、おわんでたべました。そのあと なんども よしんがつづきまし

もうぜったい じしんが きて ほしくないです。

ニねん せきもと しず

あそんでいました。えちゃんは、テレビを見ており、わたしは、リカちゃんにんぎょうでえちゃんは、テレビを見ており、わたしは、リカちゃんとんぎょうでおねえちゃんと、わたしと、ふたりでるすばんをしていました。おねっらかわおきじしんのとき、おとうさんもおかあさんも「いなくて

たづけを しました。 おとうさんやおかあさんたちが かえってから、みんなで、あとかと、てつのテーブルが たおれてくるのしか わかりませんでした。っていたら、いっきょに ぐらぐらと きました。わたしは テレビはじめ じしんが くらくらと きたのでわたしは、だまってすわ

だといって でんわをきりました。といいました。うちなんか ちゃわんも ほんばこも めっちゃくちゃど三ぐらいで ものも たんすも おちたり たおれたり しないよ三日ぐらいたって やっとつうじました。おばちゃんのうちでは、しんでんわを さまにのおばちゃんに かけても、つうじませんでした。

れて、土よう日にうちにきました。うちは ちょうど おふろをわか一っしゅうかんぐらい たつと おばちゃんが おじちゃんを つ

なあとおもいます。

なあとおもいます。

なあとおもいます。」とおじちゃんはいいました。つぎは、「とまっていけいっていくか。」とおじちゃんはいいました。つぎは、「とまっていけいっていたので「はいっていったら。」というと「とまっていく。」といったので、ふとんをひいていたら。」というと「とまっていく。」といったら。あした日よう日だから。」というと「とまっていく。」とおじちゃんはいいました。つぎは、「とまっていしていたので「はいっていったら。」とわたしがいったら。「じゃ、

三月二十一日に、大じしんがありました。

はげしくゆれました。ました。じしんのゆれかたはたてゆれ、よこゆれが、まざって、全体が、けして、「あっちに行きなさい。」と、言ったので、へやのすみににげた。すると、グラグラッとゆれてきたので、お母さんがすぐストーブをその時わたしは、お母さんとストーブの近くに、ねころがっていまし、

に、いっぱいのいれ物を持って行きました。夜になっても電気がつかなくつを、はきました。水道の水が出ないので、きゅう水車に水をもらいつかりました。ラジオをつけて「浦河のニュースを聞くと、けがをしたつかりました。ラジオをつけて「浦河のニュースを聞くと、けがをしたっかりました。ラジオをつけて「浦河のニュースを聞くと、けがをしたくつを、はきました。水道の水が出ないので、きゅう水車に水をもらいた。そのときわたしは、じしんは浦河にきやすいんだなあと、思いました。

どりです。 どく、おじさんたちがなおしてくれましたが、もう、じしんは、こり とろは、図書室や理科室です。ろうかや、体いくかんも、ひがいがひ ました。そうするとテレビきょくの人もきていました。ひどかったと た、大きいじしんがくるかも知れません。そのつぎの日 学校に行き るほどきました。今も少しつづいています。きっと、そのうちに ンチぐらいづれているということです。よしんは、いっぱい あきれ たしがへんに思ったのは、ジュウタンがうごいて、なんでも、四十セ たくさんの人が、手つだいにきてくれて、きれいに、なりました。わ 持って、ひとつのへやで家ぞくみんなふくをきてねました。つぎの日 いので、ローソクをつけて食事をしました。ねるとき電池やラジオを ま

浦 河 お きじしん

三年

前 田

希世子

んが「これはにげないといけないわ。」といいました。 たので、すわっていられなくなりました。そして、一人のおばあちゃ にひどくないので、すわっていましたが、だんだんゆれが大きくなっ がきたのでびっくりしました。さいしょは、しずかで ゆれもそんな んが話をしていて のおばあちゃんがいえにきました。そして たくさんきていました。まだおまえりの時間までに間があるので、人 じしんの前に私のうちはおまいりだったので、おばあちゃんがたが だいぶんたってからきゅうにグラグラッとじしん おかあさんとおばあちゃ

んすをおさえて、ストーブの火をけしました。おかあさんは、まだ赤 私はそれを聞いて すぐそとへにげました。おかあさんは、ちゃだ

外にいました。おかあさんが、もどってきました。そして家にはい

そして 外へでたら すぐじしんがやみました。そのあと私はうち ちゃんがおなかの中にいるのに おなかだいじょぶかい。」と言いました へ入りました。そのとき、おまいりのおばあちゃんが、「おくさん だいじょうぶかな。と思いました。

補河とちがって 私たちがきたら水がでていました。お母さんとお 父さんはあとかたずけがあるので、家に帰りました。 ぶね。」といいました。私もきねうすへいきました。きねうすは、 おかあさんも「きねうすなら まきストーブもあるから おりてきて「きねうすに ンバーをきて みじたくをしていました。おとうさんが そうしているうちにつなみけいほうがほうそうされたので こんなゆれの大きいじしんは 子どもおいてくるか。」といいました。 はじめてで びっくりした。 二階から だいじょ

HH^H 地

W

=##^{##}

本

年

う所にでかけ、おかあさんは、となりにいきました。ぼくと妹は らおかあさんは、うら口から外にでました。おとうさんは、そっと ちにきなさい。」と、いいました。妹のつくえのところまでくると、 んがきたので ぼくはびっくり しました。おとうさんが、「こっ ました。そのとき、ぼくはべん強をしていました。とつぜん 本だながたおれてきて、もうすこしでしたじきになりそうでした。 じしんがおさまってから 三月二十一日 午前十一時三十二分どろ しんど六の地しんがき ぼくと妹とおとうさんで ベランダか 地し

ています。こんど地しんがきても、けがをしないようにしたいとおも けてると、つなみけいほうがでていると聞いて、びっくりしました。 ってみると、家の中は、ぐちゃぐちゃになっていました。ラジオをか 今でも地しんがあるので、また大きな地しんがくるかとびくびくし

話 を聞いて働働

年 **/**]\ 野 操

てストーブをけしました。じしんのゆれがおさまってから、おとうさ その時、きゅうにグラグラッと地面がゆれたので、おじさんがあわて とまりました。そとは、三階だての家で三階がしんせきの家です。 二人で札幌に行っていました。札幌にしんせきがいるので、その家に んがテレビのニュースを入れました。 つぎの日の朝、八時ごろ、わたしはテーブルで絵を書いていました。 わたしは、浦河でしんど六の大じしんが来る前の日に、お父さんと

てきも出ません。わたしは、おかあさんにいって、じどうはんばいき したが、おかあさんたちは、外に出ていたのか、いませんでした。 六と書いてありました。わたしたさはびっくりして、あわてて電話を たちがしんばいで、つうじるまで何どもかけました。やっとつうじま かけましたが、せんがこんでいて、なかなかつうじませんでした。 つぎの日、わたしとお父さんは、朝早くに札幌を出ました。家につ 何ども何どもかけても、つうじませんでした。わたしは、お母さん 札幌のニュースを見おわって、つぎに浦河と出た時、よこにしんど わたしは、のどがかわいたので、水をのもうとしましたが、一

> でも、よしんがつづいています。わたしも、じしんがきたら気をつけ ました。お母さんが「せんたくができないなぁ。」といいました。今 でジュース買ってきて飲みました。自分のへやに行ってみると、足の ふみばがないほどちらかっていました。きゅう水車がきて、水をくれ たいと思います。

おき地しん

浦 河 き地

うどいていました。 車のタイヤがパンクしたかな。」といって、車をとめてみると、まだ

が、せいきょうのところでグラグラとゆれました。おかあさんが、「

ぼくは、地しんがあったとき、車の中にいました。はしっていた車

ました。じしんがおさまったので、車のドアをあけて外のじょうたい をあけようとしました。でもうごいているからあけられなくて、じし て足から血がでていました。 えろう。」といって、いそいでかえりました。おとうさんが、外にい を見ると、地われがしていました。ぼくは、「おかあさん、うちにか あたまをぶつけたり、手をぶつけたりして、すごくいたいおもいをし んがおさまるまでまっていました。車は、すごくうごいているので、 おねえちゃんが、「じしんだ。」といったので、ぼくは、車のドア

中にいたら、ぼくもケガをしていたかもしれないと思いました。 中にはいって見ると物が全ぶたおれていました。ぼくは、もしうちの その時 だん水になり、ていでんになりました。でんきはしばらくしてつき ぼくはうちの中はすどいんだろうなと思いました。うちの

切につかいました。 した。ぼくも、たくさんてつだいました。そして、その水を家中で大 きゅう水車がきた時は、みんなうれしそうにして水をもらいにいきま ましたが、だん水が何日もつづいて、家の中のみんながとまりました。

た。また地しんがあったらそうしょうと思います。 るから、大きないたの上に上がるとあんぜんだよ。」ときかされまし こんどじしんがきたら、おとうさんに「外にでた時は、 地われがあ

っしゅんのきようふ

教

をかきわけてでてきました。 ねえさんのへやへ行きましたが、じしんのゆれがおさまったので、本 ました。そのあと、コンロをとめ、まどをあけました。こんどは、お んできました。「みちこ!」とさけんでネギをなげ、本ばこをおさえ かあさんはネギをもったままストーブをけし、わたしのへやへかけて びきがしました。とたんに、本ばこがゆっくりたおれてきました。 かけていき、本ばこの下のいすへかけこみました。ゴーゴーというひ という音とともに、はげしいゆれをかんじ、わたしはじぶんのへやへ んをつくっていました。そしてネギをきろうとしていたら、ドドーン おきゃくさんがくるので、きれいにしてまっていました。母は、うど あの日は、今でもしんじられません。その日は 三年 北 二十一日でした。 見 子

ちゃのまにいってみました。すると、金魚ばちがたおれて、金ぎょが えに本ばこがありました。おかあさんがくつをもってきてくれました。 わたしのへやは、まるでかまくらのように本がつまさって、 そのう

> こぼれて、だんごになっていました。 いじょうがしんでしまいました。だいどころでは、ちょうみりょうが ばちゃばちゃとはねていました。大急ぎでとってやりましたが、半分

たあとで、しんだきんぎょをうめてやりました。もう、こんなじしん じしんがどんなにおそろしいかがわかりました。かたつけがおわっ

浦河 沖 地震 ◇地
◇ 腰 *
◇ *

はこりどりだと思いました。

うちにいっていました。

年 松 岡

昭和五十七年三日二十一日 地震がありましたが、私は、いとこの 四

あっちこっちににげていました。そのときは、ドキドギしてなきそう にでたら、どこのおみせもぐちゃぐちゃでした。つなみけいほうがで とふたりで、すぐそこにあったざぶとんをかぶりました。ちょうどス けれどだんだんおおきくなってきたので、そこのうちのおねいちゃん になりました たので、すどくびっくりしました。みんな、つなみがくるというので、 て、心ぞうがすどくドキドキしていました。おねいちゃんと店のまえ した。浦河にこんな地震がくると思っていなかったので、びっくりし トーブやガスがついていたので、そこのうちの人がすぐけしにいきま そのいと2のうちはくつやさんで、地震は、さいしょはよわかった

ぐちゃぐちゃでした。電気もつかないし、水もでないので、おふろも バタバタたおれて、すむしこわれていました。わたしのヘヤの中は、 買ってあったしょうゆやあぶらが、ながしにとぼれたり、タンスが

うちにあったエレクトンにキズがついたり、ステレオがおかしくなとおきだしました。もう、こんな地震がきてほしくないと思います。ているときもよしんがつづいて、ねむれませんでした。よしんがくるはいれないし、せんたくもできないので、すごくいやでした。よるね

* おそろしかった地震 ***

四年天野幸子

っていたので、二人しかいませんでした。ました。おじさんや、なおみちゃんの妹や弟は、ひなぎく保育所にい川なおみさんが一人でるすばんをしていると聞いたので、遊びにいき一日入学日なので、そこへ行こうとおもっていましたが、友だちの中にあそびにいっていました。ほんとうは、ひなぎく保育所の新入生のその日は、ちょうど、家にいませんでした。五丁目の中川さんの家

と言いあって、まっていました。と言いあって、まっていました。何分かたってからにしょうね。」りでもぐりこんでつくえの足をおさえていました。ゆれがだんだん大ちでもぐりこんでつくえの足をおさえていました。ゆれがだんだん大きのがおちてきました。かずみちゃんも、「おそろしい。」といいまきくなっていくので、とてもおそろしかったです。地震とどうじに、は一貫を大きました。かずみちゃんが、「すると、とつぜん「グラグラ」とゆれました。かずみちゃんが、「

か。」といっぺんにきかれたので、ひとつづつ答えました。まわりをとさけんで、にかいにのぼってきました。つぎに、「けがはなかった何分かたつと、中川さんのおじさんたちがきて、「だいじょうぶか」

りにいきました。 その水をつかって、なべやきうどんをたべるととができました。でも、 のやかんはたおれて、水がとぼれたのに、ふしぎだねえ。」といって んのへやをみると、やかん二つに水がはいっていました。 ゃんがかえってきました。いままで、ひなぎく保育所にいた妹がかえ とうり、はんこやかつ字が、ぜんぶおちていました。すると、 なかったので、よかったなぁと思いました。やっぱり、そうぞうした えってみると、水びたしでした。おばあちゃんは、うんよく浦河にい はどうなっているの」ときくと、「やっぱりすごいので、てつだって お母さんが「大じょうぶ」とさけんでむかえにきてくれました。「家 がいっぱいおちたのではないかと、いろいろそうぞうしながらいたら 見ると、なんでもはんぶんいじょうはこわれていたので、家もはんこ またよ農がきたらとまるので、さまにのおばあちゃんのととろにとま ってきたのです。まずこれで全員あつまりました。ふと、おばあちゃ ね」といわれたので、「うん。」といってはしってかえりました。か 「ちゃのま

もちをおちつけて、ひなんできるようにしたいと思います。できるようにしておいて、おちついて行動するのが一ばんなので、気また、こんどみたいな地震がきたときは、いつ、どこでも、ひなん

て、ゆれがはげしくなったので、こわくて母にしがみつきました。ぼくが、旅館のちょうりばにいた時、とつぜんぐらぐらとゆれてき必免や。 四年 松山昌弘

それから、ぼくは、にげようとかいだんをのぼっていくと、たてゆ

れになってのぼれなくなって、足をぶつけてしまいました。

りしました。が、あとから聞くとぼくよりさきに、にげたということなのでびっくが、あとから聞くとぼくよりさきに、にげたということなので心配したうにもにげられませんでした。ぼくは、母を見なかったので心配したやっと、うらげんかんにいくと、くつばこがたおれてきて、にげよ

タルが、落ちたことです。ておどろきました。とくに、ひどいと思ったのが、となりの店のモル地震がおさまって外へでると、いろいろなところに、地われがあっ

のではないかと心配しました。しばらく、町を見てあるいてから旅館や店は、しばらくできないだところがダメージをうけたので、旅館や店は、しばらくできないがおちたときに、二人のお年よりが、にげようとして、落ちてきど、ひどいじょうたいになりました。話に聞くと、となりの店のモルビ、ひどいじょうたいになりました。話に聞くと、となりの店のモルしばらく、町を見てあるいてから旅館にもどってみると、表のくつ

ました。しばらくマンガを読んだりしていました。さい」と言われました。いそいで、山の上のしりあいのところへ行き町長さんに「ぼくたち、つなみけいほうが、でているからひなんしなくれから、しばらくして、つなみけいほうがでました。外にいたら、

よくわかりました。ほかのことは、テレビを見て、どうなったのかを車で見てきました。ほかのことは、テレビを見て、どうなったのかつなみけいほうがかいじょになって家に帰る前に、東町や堺町の方

父や母は言っていた。

家では、夜中に、いろんなととがおきてもあわてないように、ねどとての地震が、夜中に起きたらたいへんなことになったと思いまし。

に、かい中電燈をおいてねています。

ました。 なことをしなければならないので、たいへんだなぁと、つくづく思いれど、大人になったら、地震などで家がこわれたりしたら、いろいろいいいなぁと思いました。それに、今は、たいしたことはしていないけとんなに大きい地震は初めてですし、おそろしいので、もうないと

※ とつぜんやってきた地震

私たちは、テーブルの下に、すぐもぐりこんだ。地震が終って、気キが来たとたんに、グラグラときたので、本当におそろしかった。ないことが、おきた。それは、震度六の烈震にであったことだ。昭和五十七年三月二十一日、午前十一時三十二分に、一生忘れられ

スがわれていて、時計もだいぶこわれていた。「大そんがいだ。」とタンスがひっくり返って、どちゃどちゃでした。店の方は、全部ガラ私のへやは、本棚から本が落ちたていどでしたが、父や母のへやは、れたりしていた。とても、弟のたん生日どころではなかった。がついた時は、足のふみ場もないありさまだった。物が落ちたり、わがついた時は、足のふみ場もないありさまだった。物が落ちたり、わ

わかった。この地震がおこってから、水や電気のありがたさも、よく、思った。この地震がおこってから、水や電気のありがたさも、よく、になったのはいいけれど、こういうことで有名に、なりたくはないと近所の人たちも地震の話ばかりで、日本中の話だいになった。有名

こわかった地震*

四年内藤史康

ぼくが茶の間で長いすにすわってテレビを見ていると、とつぜん、三月二十一日 午前十一時三十二分のことだった。

「グラグラ」とゆれだした。

にわれて飛び出して来たのが目に入った。食器だながテーブルの方にたおれてきた。さらや茶わんが、こなごなで、急いでガラスのテーブルの下にもぐりこんだ。「ガッシャン!」いつものことだと思っていた。しかし、ゆれがはげしくなってきたのいつものことだと思っていた。しかし、ゆれがはげしくなってきたのいてはは思わず、「あっ、地震だ!」と大きな声で言った。最初は、

く続いた。

落ちてこわれる音がつぎつぎに入ってきた。という窓ガラスのゆれる音や、「ガタン/ガチャン!」と言う何かがむねがドキドキして、不安でしょうがなかった。耳には、「ガタガタ」はくは、テーブルの下で四つんばになっていたが、体が前後にゆれ、

った。みんなわらいだした。「外に出ろ!」と、物おきの整理をしていたお父さんが言ったので、む中で飛び出した。ほくに続いて、台所で昼の用さんが言ったので、む中で飛び出した。ほくに続いて、台所で昼の用さんが言ったので、む中で飛び出した。ほくに続いて、台所で昼の用さんが言ったので、む中で飛び出した。ほくに続いて、台所で昼の用さんが言ったので、む中で飛び出した。ほくに続いて、台所で昼の用さんが言ったので、む中で飛び出した。ほくに続いて、台所で昼の用さんが言ったので、む中で飛び出した。

われて、部屋中に飛び散っているのが目に入った。茶ダンスやステレ家に入ると、一番はじめに、さらや茶わんなどがメチャメチャにこ

つけに、三日間ぐらいかかり、とても大へんだった。よしんもしばらもとにはヘルメットやかい中電とうをおいてねた。地しんのあとかだ地しんがあってからは、しばらく服を着て四人かたまって、まくらくはその様子を見ると、また体が「ガタガタ」とふるえ出した。ほ乗せていたポットが落ち、カーペットが水びたしになっていた。ほ

電子レンジなどが、みんなひっくりかえっていた。ストーブの上

ろしかった。
このときの様子は目をつぶるとすぐにうかんで来る。地しんはおそ生まれてはじめてけいけんした大地震だった。

┗ ♥ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ■ 四 年 はじめてのけいけん・

思わず口からでた。

思わず口からでた。
はいと思った。「キャー」と、前でタンスがたおれたので、目まいではないと思った。でもこんどは目のとした時、ぐらっときた。私はめまいかと思った。でもこんどは目のた。でも、今日はえい画に行くやくそくをしていたので、でかけよう三月二十一日の日曜日、今日は学校が休みなので、のんびりしてい

まった。私も立っておられなかった。ヤカンを持とうとしたら、お父さんもヤカンといっしょにころんでしゃのまにいたので、私は心配だった。お父さんは火を消そうと思って私とお母さんは、げんかんにいた。おねえちゃんとお父さんが、ち

ちゃで、サイドボードの中はとてもすどいありさまであった。自分の少しおさまってきたので、ちゃのまにいって見たら、もうめちゃく

古市尚子

みえなかった。おばあちゃんの家はどうだろうと思った。少し家をか つもすごいから、こんどもたいへんだった。 たずけてから、おばあちゃんの家に行ってみた。ときわ町の通りはい へやに行ってみると、本だなの本は全ぶおちているし、机の上は何も

えていた。 べ物は、パンやカップラーメンだった。その夜は、体中ブルブルふる 夜は電気がつかないので、ローソクとかい中電燈でまにあわせ、食

は、まず火を消して、窓、戸をあけるようにしなければならないと思 とこんなに大きいものかと思った。自分の家に帰ってきてから、テレ た。次の日は、何回もちいさなよ震が起きた。こんど地震があった時 ビがついたのでみていた。やっぱり、浦河沖地震のことばかりでてい った。でも、生まれて始めて大きいじしんに会ったので、六度になる いせつなんだと思った。震度が六度とわかった時はとてもおそろしか いつも、そんなに水をだいじにしていないけれど、いざとなるとた

^逊强^涨 おそろしか った地震 年 激光

たい忘れられないだろう。 三月二十一日の浦河沖地震は、一生忘れられないと思う。いや、 ぜ

Ŧī

豐

原 賀 子

みんなびっくりして外へ飛び出した。 **農度六(マグニチュード七・三)の地震があった。とつぜんきたので** 地震が何回もあった。その時は誰もなんとも思わなかったが、その後 タンスや、本だな、つくえまでたおれた。大きな地震の前に小さな

家の中の物が全部ひっくりかえっていた。

をつけていたので、津波のじょうほうを聞くことができた。 つづいた。停電にもなったし、電話もつうじなくなった。小型ラジオ とつめたくて水をこぼしてしまうこともあった。それが一週間くらい いちいちくみにいって重たいので手がいたくなって、手に水がかかる ったととは食事と洗濯だった。水がでなくなったので給水車がきた。 地震があって困ったことが、いっぱいあった。わたしの家で一番困

いた。 二、三時間しかねむられなかった。テレビではどの局も浦河沖地震の ことを放送し、その中に私のしっている人達が地震のようすを話して その夜は一晩中余霞が続き、服を着たまま、ふとんにはいったが、

れしかった。でもこんどの地震はとてもおそろしかった。 で浦河の人々が、おちついて行動したことをほめていたが、とてもう いろいろおそろしいこと、不べんなことがあったが、新聞やテレビ

浦 *** 河沖 地 震 と私

緒

惠

ひっくり返り、すごかったです。たった一度のちがいなのに、 の前の震度五の時は、タンスや本だながひっくり返ったくらいでした。 大きさは、だいぶちがうことが、はっきりわかりました。 地震の最中私がしたことは、ちゃのまでうずくまって、体を守るこ 私は、 今回の震度六の地震は、タンス、本だな、テレビ、ピアノが 地震の力は、とってもすどいものだと初めて知りました。 五 年 方 地震の

とでした。その時は自分の体を守ることでせいいっぱいでした。お父

で、二十円入れると、ウゥーン、ウゥーンという音がして、ゆれるの で地震が大好きでした。それは、ゆうえんちなどによくある遊ぶ機械 さん、お姉ちゃんを見ているよゆうはありませんでした。私は、今ま に乗ったりしておもしろかったからです。

ということです。 でも、今回の地震でおぼえたことは、れいせいなたいどで体を守る

した。

安全な所へ行とうと思います。 もう、これからは、どんなに小さい地震でもあまくみないで、すぐ

浦河 沖地 e e e

\mathcal{T}_{1} 年 島 谷 志 世

おそってきました。 三月二十一日のことでした。午前十一時半ごろ、私たちに、不幸が

づけました。しばらくしてから、いとこのおばあちゃんが、さし入れ はいることができました。夕方になってから、われたお皿などをかた 私と三人で命がけでやっと二階にあがりました。しかし、二階も足の きました。弟は、友達と二人で水そうの水をかぶってしまいました。 ませんでした。タンスや花びん、電話、食器などがつぎつぎにおちて した。私はあわてて母と二人でおろおろしていてどうするとともでき ました。すると、鳥がギャーギャーさわいだとたん、じしんがおきま がきていたので、その子も弟と二人で温室で生きもののせわをしてい ふみばもないくらいでした。でも、やっとのことで自分の部屋の中に その日、私は家の中で一人であそんでいました。ちょうど弟の友達

> えていたので、心ぞうがドキドキでした。 その夜は、不安でした。いつ地震がくるのかなということばかり考

だん水してしまっていたので、いつも母と二人でお水をくみにいきま 不安な一夜があけて次の日は、ほんとうにこまってしまいました。

っています。 いうことです。私は、このようなことがおきてほしくないと思います。22 いうこと。もう一つは、必ず心の準備をしておかなければならないと たと思います。私は、このじしんで勉強になったことが二点あります。 をしていたので、さいわいなことに死亡者もなく、ほんとうによかっ つくづく感じます。それでも、みんなふだんから地震のじゅんびなど ときがあります。でも、自然げんしょうなのだから、しかたがないと ほんとうに、私はこのようなことがあっていいのだろうか、と思う 今度の地震はほんとうにおそろしくて、そのことだけが心に強く残 一つは、このようなときは必ずみんなで協力しなければならないと

公外公外公

浦 河沖

 $\mathcal{F}_{\mathbf{L}}$ 年 水

見ました。 は、 くえがたおれたほどの地震は初めてで、地われやがけくずれも初めて た。私が浦河に来て、初めての大地震でした。私が、前に体験したの 私は、 五十五年一月二十三日の震度五の地震です。しかし、タンスやつ 浦河沖地震が起きたとき、東静内のがけくずれの所にいまし

わすれもしない三月二十一日、さいわい日曜日だったととが、よか

をもってきてくれました。

ったと思っています。

たいと思います。
一生わすれないたいせつな経験としてこれからの生活にいかしていきをしていることがわかりました。災害の苦労も心の底に残っています。烈震にたえられるものがどれなのかということや、いつもは楽な生活が震に着くと、家の中はぐちゃぐちゃでした。でも、私のつくえとせ

浦河沖地震

父母がいないことと、お姉ちゃんのお友だちが来ていたことです。い家で子どもだけがるすばんしていました。 いつもとちがうのは、ちょうど、お父さんとお母さんが九州りょこうに行っていたので、********* 五 年 渡 部 広 恵

いました。あの朝の予しんでみんな起きていたことです。があるとのことで、朝早くにファミリースポーツセンターまで行ってつもはおひるになっても起きてこないお兄ちゃんが、サッカーの練習

がなかったので、私はいれてもらえませんでした。 いませんでした。 なかったので、私は家の中を見たことはありませんでした。 姉や兄は毎それから、私は家の中を見たことはありませんでした。 姉や兄は毎それから、私は家の中を見たことはありませんでした。 地しんのおったので、私は家の中を見たことはありませんでした。 地しんのおるなかたずけてました。 東でむかえに来てくれましたので、家を、一応さまったちょく後に、車でむかえに来てくれましたので、家を、一応さまったちょく後に、車でむかえに来てくれましたので、家を、一応さまったが、とても家の中で見たことはありませんでした。

言っていました。のことが心ぱいだったらしく、何度も電話をしたがかからなかったとのととが心ぱいだったらしく、何度も電話をしたがかからなかったと父や母が帰って来たのは一週間後でした。父や母はよほど、私たち

■地震のおそろしさ

£.

江端千

秋

らばったりして、大さわぎになりました。やっと地しんがおさまってしたりしていました。そのうち、がくがおちてきたり、本がゆかにちめました。先生の、しじにしたがって、みんな、つくえの下にもぐりめました。先生の、しじにしたがって、みんな、つくえの下にもぐりがはは、地しんの日にそろばんのしけんをうけていました。見取算が

と思いました。それよりもおどろいたのは道ろの様子です。コンクリ えろうと思い、げんかんを見ると、戸のガラスがわれていてあちこち をおちつけようと一生けんめいがんばりました。しけんがおわってか おちつくことができず、私は、手が少しふるえていました。でも、気 ぐちゃぐちゃでした。そのあとも、しけんを続けたのですが、あまり みんなほっとした気もちで、つくえから顔を出すと、そこらじゅう、 店は品物が落ちたり、 ートがもり上がったり、 にはへんがちらばっていたのを見て、「じしんって、おそろしいなぁ」 した。地しんが、こんなにおそろしいものだとは、思いませんでした。 た。うるかしていた米もちらばっていて、足のふみばもないくらいで たいへんだなぁ」そう思うと家のことが、しんばいになってきました。 おじさんやおばさんもこまった顔をしていました。「お店の人たちも 家に帰ってみると、植木がおちていたり、タンスがたおれていまし 地われがしていてかいだんのようでした。 じどうはんばいきがたおれていたりしていて、 お

多多多多多多多多多

震六の 地 震

六 年

奥 山 步

美

然のおそろしさがよくわかりました。社会科で学習した公害もおそろ しいと思いましたが、自然のひがいもとてもおそろしいと思いました。 れは浦河冲が震源地です。浦河から二十キロはなれた沖合で十キロ と母に言われたので、用意しているとグラッとゆれたので、あわてて トルの深さのところで、マグニチュード七・三でした。これで、 三月二十一日(日)、十一時三十二分ごろに烈震がありました。 台所にいました。「お客さんが来ているから、お茶をだして」 自 ح

> 茶づつを持ったまま机の下に入りました。だんだんゆれがはげくなり で、 らないのでないてしまいました。すると父が妹をだいて台所へ来て、 おそろしかったので父母の名をよびました。そして、なかなかおさま 他の部屋も同じでした。あの重たいピアノでさえ移動していました。 店へ行くと、ウインドのガラスがわれ、 茶の間へ行くと、置き物も加湿器も植木ばちまで落ちていました。お 下から出ると、お茶わんも皿も電器がまも落ちてこわれていました。 で、ねまきのままとび出してきました。そしておさまったので、机の ぐことができるけれど、自然のひがいはそうはいきません。自然力の しました。大工さんも来て家をなおしてもらいました。この地震のお いつあるかわからない地震がおそろしくねられませんでした 「いくみ、だいじょうぶか」と言いました。祖母は具合が悪かったの 大きさと恐しさを感じさせられました。 かげで家はかたむいてしまいました。工場のはい水などの公害はふせ 父母の話によると、二十一日から一週間くらい地震は続くとのこと 一日に余霞が三十回ほどあったそうです。次の日も後かたずけを 商品のくつは落ちていました。

******* 浦 川 沖 地 震と私

六 . 関 明 子

した。お母さんと二人で、 ゃないだろうね」と、いっていました。 三月二十一日(日)の朝、震度四ぐらいの地震で私は目を覚ましま 「まさか、これから大きい地震がくるんじ

後の日記をかこうとして、 十一時ごろから私は、 せっせとこうかん日記をかいていました。 ノートをひらいたとたん、ぐらぐらっとも

の家の工事の音も聞とえてきます。 う入りおはぎも食べたくありません。浦河がこんなにひどいところだ した。口の中に入れると、ジャリ、ジャリッとせんこうのかけらが入 おなかがすいたので仏だんにおそなえしてあったおはぎなどを食べま がおさまると、ラジオをつけてあとかたずけにはいりました。夜は、 さんの目の前すれすれにシャンデリアが落ちてわれていました。ゆれ こえて、茶の間までバタバタと走っていきました。茶の間では、 ったものの、今度はドアがあかなくなっています。何とかそとはのり みたものの出られませんでした。入口のドアをあけてにげようとは思 心しました。まっさきに、窓が網戸であることも忘れて窓をあけては みて、何で私が死ななきゃいけないんだと思って、まずにげようと決 起とっているのだと思っていました。でも、私はもう一度考え直して 私は自分は死んだんだと夢を見ているような気持で、天国でも地震が ンスがたおれ、私は机の空間にとじこめられてしまいました。その時 つくえの下にかくれましたが、そのつくえがたおれて、その上からタ のすどいゆれが始まりました。私はあわててこうかん日記をもって、 ムダなことはしなくてすんだのにと思っています。 とは考えてもいませんでした。浦河町内は今も工事をしています。私 っていました。水も電気もない生活はもうしたくありません。 あの地震さえこなければ、こんな せんこ お母

*** 火を消すことの大切さ ***

ろにも、震度六の地震がありました。この地震があった時、私は家の補河は、地震の多い所です。今年の三月二十一日十一時三十二分ど

武中

かおり

じました。
はいまりました。十分も続いていなかったのにすごく長い時間に感ました。びっくりしてどうしたらよいのか、判断にまよい、入口の戸きて、つくえやピアノまでがうどきだし、本などがたくさんおちてきました。びっくりしてどうしたらよいのか、判断にまよい、入口の戸ました。びっくりしてどうしたらよいのか、判断にまよい、入口の戸ました。びっくりしてどうしたらよいでしたが、だんだん大きくなってきました。はじました。びっくりしてどうしたらよいであると、急にぐらぐらと地につかまりました。姉と二人でテレビを見ていると、急にぐらぐらと地にすした。

おれ、たながおちて足のふみばもないほどでした。地震がおさまってから、私の部屋をのぞくと、つくえや本ばとがた

ろいろな実験につかう液がまざってへんな色になり、ゆかにおちていゆかがこわれていたり、理科室では魚などの標本類がとわれたり、いがはがれおちていたりして、すどくこわれかけていました。学校では、とつもまがっていました。まわりの家もななめになっていたり、かべてある自転車やオートバイが全部たおれていました。しゅうごうえん下へおりてみると、おちゃわんやおさらなどがわれ、店頭にならべ

ました

にしょうとは思いませんが、あってほしくないと思います。だけは忘れないようにしょうと思っています。地震がおこらないようの地震の時は火事がでるかもしれません。ですから、火を消すことの地震が終ってから、ニュースがはいってくるのもラジオしかないし、地震が終ってから、ニュースがはいってくるのもラジオしかないし、

六 年 坂 本 昌 代

が忘れているものを語ってくれたのだった。度六の地震は、私にとって貴重な体験となった。そして、地震は私達三月二十一日(日)午前十一時三十二分どろ、浦河付近を襲った震

まり、 器のこう水のため動くことができないでいた。父はゆれのひどさにび にしろ姉の背中にテレビがたおれたのだ。義兄と父は急いでひきおこ ダの戸をあけた。兄はトイレから出ようとしていたが、二階からの食 たづけ。その時、 取ろうと少しずれたためだった。しかし、姉は赤ちゃんがおなかにい した。私の頭に蛍光燈が落ちてきても大丈夫なようにと姉が坐布団を っくりして長靴で茶の間にかけこんできた。私と姉はその場にうずく るので心ぱいしたが、腹まきを厚くしていたので幸いけがはなかった。 れる音でなおおそろしくなった。 地震がおきた時の状態は、父は店で山行きの用意、母は朝食の後か うずくまって何も見えない私に恐怖感を与えたのは、 震源地が近いせいか、ゴーといううなりが聞こえた。 ガラスのわ 「おそろしい」「いたい」という半泣きの声の連発だった。な 突然ガタッときた。母は急いでガスをとめ、ベラン あの地震の音

くて、よどれた所を掃除することもできなかった。うことの不自由さをはじめて感じた。 また、しばらく電気がつかなへ行きタンクを借りて水をもらってきて間にあわせた。水が無いといので夕方までは足りた。しかし、どうしょうもなくて、父の友達の家水が出なくなった。けれど家にかめがあり水がいっぱい入っていた

その後も余震は続いた。一日目の夜はおそろしくて十二時になって

と新聞にのっていました。すどい数なのでびっくりしました。余震が

やっぱり地震というのはおそろしいものだとつくづく思いました。

とのどろは少なくなってきたけれど、 余震が多くて一万回をとした

からみんなと寝た。

このような経験は、貴重な財産として頭においておきたい。
ジ等を置いておく等のことだ。そして、水が出ない生活も体験した。
も飛ばないようにする。寝る時は、ラジオ、かいちゅう電燈、ジャー
も飛ばないようにする。寝る時は、ラジオ、かいちゅう電燈、ジャー
のひもが良い。地震がきたらすぐストーブを消し、ガスを止め、戸を

があらずからず

浦河沖地震

六年

久

保

三月二十一日(日)、私は自分の家のちゃの間にいてテレビを見ていました。最初は小さかったので大丈夫だと思っていたけでなく、家がつぶれてしたじきになり、死ぬのではました。その時、ちょうどにたっていたやかんがストーブの上からおちした。その時、ちょうどにたっていたやかんがストーブの上からおちした。その時、ちょうどにたっていたやかんがストーブの上からおちせったのでそのままにしておいたが、水ぶくれができていたかったです。おそろしいだけでなく、家がつぶれてしたじきになり、死ぬのではおそろしいだけでなく、家がつぶれてしたじきになり、死ぬのではおそろしいだけでなく、家がつぶれてしたじきになり、死ぬのではおそろしいだけでなく、家がつぶれてしたじきになり、死ぬのではおそろしいだけでなく、家がつぶれてしたじきになり、死ぬのではおそろしいだけでなく、家がつぶれてしたじきになり、死ぬのではおそろしいだけでなく、家がつぶれてしたじきになり、死ぬのではないかと心配で、もうそのととしか頭にありませんでした。

くきいて、妹のめんどうをきちんと見ることです。ガスやストーブは これからは、じゅう分気をつけていきたいと思っています。 さん、お母さんの言うことをきいてあせらないことだと思いました。 お母さんが見ることになっています。やっぱり一番大事なのは、お父 でした。地震がまたきたら、まずお父さんやお母さんの言うことをよ 何度も続いたので、震度三ぐらいでも震度一ぐらいにしか感じません

沖地震のおそろしさ

六年

田

河

き、またくるなぁと考えていましたが、こんな大きな地震がおこると れになりました。回りながらのゆれだと思います。朝、地震がきたと ろと思います。急に小さな地震がきたと思ったら、だんだん大きなゆ 本当にけがをした人がかわいそうでなりませんでした。 とだと思います。もうこんな大きな地震がこなければいいと思います です。たおれるならつくえの足をつかみなさいと先生は言いましたが、 いました。家の中にいるときに大きな地震がきた時は、ぜったい勉強 かスト―ブの火には気がつきませんでしたが、なんとか自動で火がき はよそうもしていませんでした。そのゆれていた間、私はあわてたの あの大きなゆれの中で重いつくえの足をつかんでいてもまずムダなこ 地震は、つくえがたおれたり上の物やガラスなどが落ちたりするから つくえには入らない方が良いと思います。浦河沖地震みたいな大きな に思われます、私の親も人に話をしていた時、そういうふうに言って す。そう考えると火事がなかったと言われていても、本当にぐうぜん えました。きっと火がきえていなかったら火事になっていたと思いま 三月二十一日、私は家でテレビを見ていました。十一時三十二分ど 蒲 江 美

* * ☆ 浦 河 沖 地 震 ☆☆☆***

浦一中一年

斉

也

ることも大切だと思うし、立ててある大きな物などは、ひもでとめて が落ちてきてけがをすることがあるからです。それに窓やドアを開 おさまるのをまつことが大切です。むやみに外に出ても、頭上から物 対策として、ストーブやガスをすばやく消し、机の下に入り、地震が 続きました。このような地震からけが人をださないためには、今後の おいた方が安全だと思います。 出ませんでしたが、そんなおそろしい地震が三十秒から五十秒ぐらい 危険な状態になりました。みんな非常口から外へ出たのでけが人は、 にゆれ、本だなはたおれ、ガラスはめちゃめちゃにわれて、たいへん した。その時は地面がわれるようなものすごい音を立て、店も弓なり んがい冷静でしたが、その地震からすぐに震度六のゆれがはじまりま 震度三ぐらいの地震なら浦河にとってめずらしいことではないのであ いろ聞いて母と選んでいると、突然震度三ぐらいの地震が起きました いたのは十一時二十分どろで、参考暦のことについてお店の人にいろ 三月二十一日、参考暦を買うため母と文昭堂へ行きました。店へつ

*** *** 十二年 十二年間感じたことのなかった恐怖 浦一中一年 た恐怖 ** 田 祐

子

突然ものすどい揺れ方になり、私の目の前に額ぶちが落ちてきたり、 いましたが、一区切ついてホッとすると同時にグラリと揺れました。 い出来事でした。あの一瞬、私はソロバンの試験が有り、塾へ行って 三月二十一日の浦河沖地震は、生まれて十二年間のうちで一番恐し

が人も出ませんでした。出来ず、皆んなと一緒にかたまってじっとしていましたが、一人のけ家がつぶれるのではないかと思いました。恐しくて何も考える事が、ガラスが割れ、家の中の物が倒れるなど、座っているのがやっとで、

ないなかで、津波が来ると言う知らせが有り、中学校への入る準備がすべての家具が倒れ、水道や電気が止まり、家の中は足の踏み場も私でしたが、この時ばかりは何とも言えない気待でした。私でしたが、この時ばかりは何とも言えない気待でした。

すべての家具が倒れ、水道や電気が止まり、家の中は足の躍み場もでいなかで、津波が来ると言う知らせが有り、中学校への入る準備がないなかで、津波が来ると言う知らせが有り、中学校への入る準備がないなかで、津波が来ると言う知らせが有り、中学校への入る準備がないなかで、津波が来ると言う知らせが有り、中学校への入る準備がないなかで、津波が来ると言う知らせが有り、中学校への入る準備がないなかで、津波が来ると言う知らせが有り、中学校への入る準備がないなかで、とんなにありがたく、大切なものかと強く感じました。
 すべての家具が倒れ、水道や電気が止まり、家の中は足の躍み場もすべての家具が倒れ、水道や電気が止まり。家の中は足の躍み場を日項はあたりまえに思っていたことのありがたさや、人の心の暖かを日項はあたりまえに思っていたことのありがたさや、人の心の暖かを日項はあたりまえに思っていたことのありがたさや、人の心の暖かないなかで、身をもって感じました。

地震の時私は…

三月二十一日にあった、 あの浦河沖地震のことを考えると浦一中一年 安 藤 富美子

たようなじょうたいで、お母さんと苫小牧から来たおばあちゃんと三 体がふるえそうになるくらい恐怖感がおこります。私はその日三月二 最中だったら、パニックじょうたいになり、けが人も多くでただろう がふるえてこまりました。私にとってはじめての大地震でしたから、 祭壇を、私はテレビを、苫小牧のおばあちゃんは洋茶をおさえました がして、天井からこながパラパラとおちてきました。私たちはその中 十日に行なわれた小学校の卒業式のことを考え、なんとなく気がぬけ と思います。 なくてよかったなぁ」というおもいでした。もしこの地震が卒業式の あと、私の頭にばっとうかんだことは、 自分でもその時なにをしていたかわからないくらい夢中でした。その やっと地震がおさまり、私はすぐお母さんにしがみつきましたが、足 を、やっとはって歩き、お母さんはこの間なくなったおばあちゃんの んだんゆれがひどくなっていくばかりでした。二階ではものすごい音 つもの地震の時はすぐゆれもとまるのですが、浦河沖地震の時は、 つものとおりお母さんは火をけし、私はガスの元栓をしめました。 人で家にいました。あんな大きな地震とは思いませんでしたので、 「ああきのうの卒業式の日で

思います。
の急いで外に飛び出さないこと。この二つは、日ごろから両親にいわれは、①地震がきたら、すぐに火やガスをけし窓を開けること。れていることですから、すぐに火やガスをけし窓を開けること。私は、浦河沖地震を経験して、思ったことがいくつかあります。そ

りません」という表現の中に子ども達の恐怖感が語られてい「もう地震はいやです」
「こんな地震にはもうあいたくあ

でれの体験を主体的に受けとめてほしいものです。 でれの体験を主体的に受けとめてほしいものです。 やれぞれの家庭の職業によって、地震の恐ろしさの受けとめた。 まして、今後の生活の中で生かされていくものと思います。 たい苦干の差がみられるようです。 特に商店街の子ども違はショーウインドなどのこわれたのをみた驚きは格別のようです。 また、地域によってもゆれ方に差がみられますが、学生時代にあった十勝沖地震の恐ろしさが語られていますが、学生時代にあった十勝沖地震の恐ろしさが語られていますが、でれの体験を主体的に受けとめてほしいものです。

・地震に対して、、家庭でどのようにしつけているか、というを検討してほしいものです。やはりふだんのしつけは必要ですし、今後のれるようです。やはりふだんのしつけは必要ですし、今後のれるようです。やはりふだんのしつけは必要ですし、今後の各家庭における課題として「地震に対するしつけているか、というを検討してほしいものです。

切であり、特別の事故はありませんでした。は落着いて行動したようですし、それぞれの施設の指導も適けていた子どもも多かったようですが、災害の大きさの割にり日は、映画館、スポーツセンター、そろばん塾へと、でか

の徹底をはかっていきたいと思います。一層訓練がえます。今後とも家庭のしつけとあいまって、尚一層訓練で、発生と同時にテーブルや机の下へもぐったようすがうかで、発生と同時にテーブルや机の下へもぐったようすがうか。



対する感想文を書いていただきました。 五月現在、各学級の父母の方々にお願いして、「浦河沖地震」に

目恐怖の一瞬日

風呂のお湯の水をもらい水して苦労した事でした。 月の夜中におきた大きな地震の後、何日か断水で生後二ケ月の娘のお した。地震がおさまってから娘が私の所へ飛んで来ましたが、恐しさ うようにして祭壇のろうそくを消し、祭壇を押えているのがやっとで いた中一になる娘にテレビを押える様に言い、私はあの激震の中、 はゆれ方が違っていましたのでこれは大変だと思い、テレビの近くに はすぐ火を消すので、その時もまず火を消しました。でも、いつもと とした気持ちで過していた矢先にあの大地震です。いつも地震の時に 地震前日、小学校の卒業式と祖母の初七日をすませ、何んとなくホッ っちこっちに散乱している中、私の頭の中に浮んだのは、四十五年一 で二人の体が小きざみに震えているのがわかりました。物が倒れてあ 私は浦河沖地震の時のことを思うと、 一年父母 今でも恐しさで体がふるえます。 浦河町東町 安 藤

もなく無事だった事です。

「自然のいとなみほど人に教訓を与えるものはない」といわれていますが、地震の時にはまず火を消し、窓を開けること、絶対に急いで外をあげて置かないこと、等が大切です。私達の住んでいる浦河は、に物をあげて置かないこと、等が大切です。私達の住んでいる浦河は、に物をあげて置かないこと、等が大切です。私達の住んでいる浦河は、に物をあげて置かないこと、等が大切です。私達の住んでいる浦河は、ればならないと、今度の地震で大いに考えるものはない」といわれていまればならないと、今度の地震で大いに考えさせられました。

灣浦河沖地震

一年父母 浦河町東町 大 向 悦 子

震が納まったあと家の中はかなり散乱しておりましたが、幸いな事に、 家の前の自動車は大きく揺れ、 が大揺れしたので、 共に家にいた私は昼食の用意をしておりました。その矢先ぐらっと家 地震は震度五とは比較にならないほどすさまじいものでした。家族と 大地震と、続けざまに恐ろしさを体験しました。しかし、震度六の大 河に在住するようになりましたが、一年前の震度五と今回の震度六の できず、そばの木にしがみついて震えていました。そして二年前に浦 た大地震、その時外にいた私は、急な地面の揺れに立っていることも 験として今でも鮮明に思いだします。次は二十二才の頃に室蘭であっ 初めての経験は小学校一年生の時に帯広であった大地震で恐ろしい体 見届け、 私は今までに大きな地震を何度か経験しています。 玄関の戸をあけたとたんその場へ坐わりこんでしまいました。 地震と思った瞬間、 物置は今にも崩れ落ちそうでした。地 ガスを止めて、子供の安全を 私の記憶では、

> 方法を考えていきたいものだと思ております。 方法を考えていきたいものだと思ております。 方法を考えていきたいものだと思ております。 方法を考えていきたいものだと思ております。 方法を考えていきたいものだと思ております。 方法を考えていきたいものだと思ております。 方法を考えていきたいものだと思ております。 方法を考えていきたいものだと思ております。 方法を考えていきたいものだと思ております。 方法を考えていきたいものだと思ております。

⇔沸浦河沖地震にあって☆☆☆☆

一年父母

浦河町東町

櫛田

郁

子

ストーブの火を消しながら、「茶の間は危いから二人とも隣の部室へたに居ろ!」と注意されていましたので、グラグラときた瞬間、先ずた、何となくのんびりとしながら茶の間でくつろいでいました。そろと、何となくのんびりとしながら茶の間でくつろいでいました。そろと、何となくのんびりとしながら茶の間でくつろいでいました。そろに、そうはいかなかったようです。常日頃から「外へは出るな!家の中に居ろ!」と注意されていましたので、グラグラときた瞬間、先ず中に居ろ!」と注意されていましたので、グラグラときた瞬間、先ず中に居ろ!」と注意されていましたので、グラグラときた瞬間、先ず中に居ろ!」と注意されていましたので、グラグラときた瞬間、先ず中に居ろ!」と注意されていましたので、グラグラときた瞬間、先ず中に居ろ!」と注意されていましたの間は危いから二人とも隣の部室へストーブの火を消しながら、「茶の間は危いから二人とも隣の部室へのに居ろ!」と注意されていましたので、グラグラときた瞬間、先ず中に居ろ!」と注意されていましたので、グラグラというない。

見る間に植木鉢、家具、ストーブ等が倒れ、茶ダンスやセトモノが次 父さんは倒れたら危険なモノをおさえに廻りました。あれよあれよと 早く逃げなさい!」と叫び、私は台所のガスの元栓を締めに走り、お 災害は生涯忘れることはできないと思います。 居たことなど、裂震の割には好いことずくめで被害も少くて済んだの で考えると家族がそろって居たこと、休日で力のあるお父さんが家に 常用品の整備はきちんとしておかなくては…と反省もしました。あと び出そうとして恐しさを和らげさせるのに大変でした。ふだんから非 聞き慄然となりました。子供達も、其の後の余震の度にも外へすぐ飛 ですが、あとの報道では、外に出ていた人の方がけが人が多かったと まいました。ところが二人ともあっという間に外に逃げ無事だったの の下敷になってしまったんだと思い、もう気ちがいのようになってし かと、隣の部屋を覗いたのですがどの部屋も惨たんたる状況で、家具 から次へと割れる音で、 が幸いでした。そして此の日は私達の結婚記念日だったのです。との 一杯の状態でした。ほっとひと息いれて、さて子供達はどこに居るの 自分の身をけがをしないようによけるのが精

沖 地 ########## に 思う淵

二年父母

補河町東町

黑

JI]

みや子

開けて子供達はと思い振り向いた時には、もう食器棚、 度六の地震に見舞われました。ストーブの火を止め、ベランダの戸を い所ですよ」と、 などがつぎつぎとすざましい音と共に倒れはじめていました。子供達 無いだろうと思っていたところ、三月二十一日、午前十一時半とろ隱 私は、浦河に住んで今年で匹年目を向えますが「浦河は、 聞いてはいたのですが、直接そんなに大きな地震は 本箱、 地震が多

> を連れ、ベランダに出て外をながめていると、道路に亀製が入り、 子供達に怪我がないことを確かめたあと、家の整理を始めましたが、 タンクと足の踏場もないほどひどいものでした。ガスの元栓を締め、 た時の家の中は、家具を始め、食器、 物の囲りの土がさがりマンホールが浮き出てきました。揺れが止まっ 混って散乱していました。しかし、掃除機も水も使えない為に、あと 停電に断水、ジュウタンには、食器の欠けらが、刺ったり、水と泥が 休みました。) り、そのたびに「またか」と恐怖がはしり、夜は全員、服を着たまま だ!」「何んとかしなくては」と夢中でしたが、日に何度も予震があ はほんとうにホッとしました。震度六の最初の時は、恐怖より「大変 や首まで痛くなり、六日間の断水で苦労させられました。水が出た時 かたづけも思うように出来ませんでした。給水車からの水運びは、 金魚の水、花の泥、本、 灯油

て生かしたいと思います。 ますが、普段の付い合を大事にしていくことを、 気持が落ちついたことか、人それぞれ異なる性格、 の家の中でも同じことなのにと思うとほんとうに有難しく、どれだけ 云う事を知りました。他人からの「大丈夫ですか?」の一言が、自分 に大事だと云うことと、人と人との普段の付き合がどれだけ大事かと 私は、この地震で火の始末、ガスの元栓、 水や電気などがほんとう この地震の教訓とし 考えがあると思い

手も足も出なかった大地

最近は、 浦河に七年前転勤して来ていらい、 地震にも慣れっ子になったと思っていた失先の大地震でした 一年父母 浦河町潮見町 地震との付合いをしてきました

橋

本

としみ

の大地震を機会に、子供にはベットの下にはいるか、または、安全な でしたので特別どうしたら良いか教えていませんでした。しかし、こ 親のそばに居たのですぐ抱きよせる事が出来たので不安もありません とや、家具の置き方などを考えさせられました。子供が小さい頃は、 ことをしているとかえってケガをするので、安全なところに身を寄せ 合回の様な大地震の時は、物をおさえる余裕もありませんし、そんな た。家具類は止めてあったので、安全なところに逃げるだけでした。 い部屋でも出入口に近い場所に物のおちないスペースを作ってきまし めてあるところに逃げました。浦河に来て三回家を変りましたが、狭 居間で子供達と一緒だったので、そのまま我が家の避難場所として決 も出ないまま一点を見つめて、おさまるのを待つだけでした。幸い、 ーンときて、 今までの「カタカタ」とか「ゆらゆら」とちがって、一瞬の内にドド 処する心構えが大切だと思いました。 大人は絶対に動揺しないことです。子供に不安感を与えないように対 ところに逃げることをしっかりと教えなければならないと思いました た方が良いと思いました。それと、何でも物を積み重ねておかないと ストーブもガス栓も止めてあったのですが、台所に行く余裕はなく、 「あっ地震だ」とさけんだだけで、声一つ出ず、手も足

■ 浦河沖地震のあった日

たが、今回ほどビックリしたのは始めてです。とにかく今までとは規のことでした。常盤町に住んで大小いろいろな地震を体験してきまし何となくパッとしない天気で、体の具合が悪いため休んでいた失先二年父母 浦河町常盤町 渡 辺 恵 子

うちに、町内の方々に怪我人が出ているという話でとても心配でした ないため不安でした。やがて水も出なくなり、電気も消え、しばらく らどうなっていただろうかと思います。ただ夢中で何とかなるとは思 感じでした。子供達は、実家に遊びにいって留守でしたが、もしいた ど、とにかく 生きた心地がしないとはこのことだと思い知らされた 世の終りかと思い、早く終ってほしいと祈るだけでした。ガラスの割 模が違いました。どう表現して良いのかわからないくらいです。上下 本当に良かったと思っています。 本当にひどい有様でびっくりしました。私などは打ち身程度ですんで 心しました。町へ出てみると至る所にキ裂が入り、家が傾いていたり が、幸いにも亡くなった方が一人もいなかったということでとても安 の間とても不便な思いをしました。ラジオで地震の状況を聞いている せん。実家の方は地盤が良いので安心しておりましたが、 いますが、今回ほど子供達がいなくて良かったと思ったことはありま れる音、タンスの倒れる音、食器類の壊れる音、壁、 裕もなく、立って安全な場所へ逃げようかと思うより、ただもうこの 左右に揺れ、それがどうなっているのかわからないまま、外を見る余 柱のきしむ音な 電話が通じ

しなければと自分にいいきかせて行動しようと思っています。います。地震になるとついあわててしまいますが、できるだけ冷静にとを願い、つねにガスと火の元に注意するように心がけるよう努めて火事も一件もなかったと聞き、もう二度とこの様な事が起きないこ

%%滿河沖地震 %%%

三年父母

浦河町東町

関

本

和

子

にならないおそろしさでした。玄関から部屋迄足の踏み場もありませ した。私は震度五までの地震は経験していますが、それとは此べもの だ』と思い、家にいる子供の無事を祈りながらいそいでひきかえしま 真中にすわりこんでいるのが目につきましたので "これは大きな地震 したが、そのうちにアスファルトがボコボコ割れ、大人が三人追路の て車で五分程走った時でした。主人が「地震だ」と云って車を止めま 戸棚二つが倒れなかったので無事外に逃げられることができたと思っ 結婚当初から家具類はひもで柱にゆわえてあるので、玄関近くにある のことも役立ち、煙突がはずれても火事を出さずにすみました。大き ています。また普段から小さな地震でもすぐ火を止めていたので、そ ん。子供達にカスリ傷一つないのが不思議な位でした。我が家では、 逃げる。高い所に重い物をあげない大きな家具は丈夫なひもで柱にゆ な地震の場合でも、慌てて外に飛び出さない、物の落ちてこない所に 冷静な判断にたって事に当りたいと思っています。 ていますが、いつ、どこで、どんなめにあうかわかりません。いつも わえるなどの教訓を得ました。災害は忘れた頃にやってくるといわれ 今回の浦河沖地震のあった日はちょうど運悪く、私と主人が外出し

※禁地震の恐怖※禁禁*

が続いている。忘れようとしている恐怖が、その度に生々しくよみが三月二十一日のあの烈震以来、二ケ月余りもたった今、なおも余震三年父母 浦河町常盤町 岡 元 好 子

出した。しけの時に乗った般のように、立っているのがやっとだ(た の物が、音をたてあっという間におちてきた。さらに大きく横に揺れ えってくる。あの日の揺れは、いきなり上下にやって来た。地響きを 穴から石油がどんどん流れだした。地震がおさまっても膝がガクガク 立っておられない程揺れていた。ホームタングが横倒しに倒れ落ち、 けてきた。その一瞬の恐怖が脳裡に焼きついてしまった。外へ出ても いつもの地震のように、ちょっと様子をみていたが、急に恐しくなっ たてて強烈に揺れた。ドンドン、ギシギシ、ガチャガチャと、あたり 確めたのは、それからだった。家の中は、どこもかしこもガラスや鏡 ふるえ、腰が抜けたようで思うように歩けなかった。火の元の安全を て、夢中で外に飛び出した。背中を家中の物が倒れ落ちる音が追いか それも気安めだと思っている震度六ではおそらく何の役目も果さない るという気がしている。地震の後で家具をいくつか壁に固定させたが 天災に対して私共が為しうることは『生命を守る』ことが第一である ってきて、お互い無事であったことを、心から喜びあうことができた 足の踏み場もない散々たる状態だった。外出していた夫と子供達が帰 食器やグラスの破片が飛び散り、家具が折り重なって倒れ、文字通り る余震に、以前にもまして恐しくてふるえているのが現実である。 だろう。今はもう烈震の前とほとんど同じ生活であるが只、時折訪れ 『火は絶対に出さないこと』このことが実行できればあとは何とかな "地震は天災なり" このことを今回の地震で改めて思い知らされた。

常が通河沖地震で感じたことの

三年父母 浦河町常盤町 大 井 智恵子

ったのはストーブなど耐震装置の賜物とつくづく思う。とができなかった。三月の寒さの中、二次災害である火災を伴わなかかせ、大人でさえも立って歩けない状態であった。ストーブは倒れ、りと共に何とも表現しようのないような凄しい揺れは、幼子の腰を抜りと共に何とも表現しようのないような凄しい揺れは、幼子の腰を抜生れて初めての烈震を体験するとは夢にも思っていなかった。地鳴

方もあるのではないかとも思われる。
また、被災当日は水道が全て使えず、水のありがたさを再認識のであった。被災当日は水道が全て使えず、水のありがたさを再認識のであった。被災当日は水道が全て使えず、水のありがたさを再認識のであった。家には貯水設備がなく、 せっかく自衛隊の給水車が来のであった。家には貯水設備がなく、 せっかく自衛隊の給水車が来のであった。家には貯水設備がなく、 せっかく自衛隊の給水車が来のであった。家には貯水設備がなく、 せっかく自衛隊の給水車が来のではないかと思う。 また、被災対策に対する町職員の献身的な行政が表面に、
まを受力が表面に、
まない、
ないが、
まる二日を要するほどひどいもあるのではないかとも思われる。

をつくる必要を痛切に感じた。地震の危険地帯であるその地区にも、早急に地震予知のできる体制多くみられるが、しかし、自然の力を制圧することは不可能である。近年、文化は急速な発展をとげ、不可能を可能にたらしめたことも

今後は、この地震の教訓を生かして万全な対策に努力していきたい

霧 烈震の恐怖 *****

昨年一月の震度五に続き、三月二十一日に北海道では始めて震度六の浦河に来て三年、地震が多い所とは聞いていましたが、その通りで三年父母 浦河町潮見町 北 見 紀実子

烈震を経験しました。

二秒の差で大怪我をしたかも知れないことを考えると恐しくなりまし 椅子の下に入っておさまるのを待つようにいい聞かせていたことがと 我はしませんでした。日頃、地震が起きた時は、外に飛び出さず机や がちらばりましたが、子供達にもすぐ手袋と靴を履かせましたので怪 タンス、本箱をはじめほとんどの家具が倒れ、セトモノ、ガラス破片 までの地震とは違ったものすごさに、とても恐怖感におそわれました 達が机や椅子の下に入っているのを確認したあと窓をあけ、始めて今 感的にガスとストーブを消し、三人の子供の名前を呼びながら、 じました。その時は何が起きたかわからないので動転しましたが、 ち、ゴーゴーという地鳴と、家が押しつぶされるような立て揺れを感 使っていましたが、急に「ドーン」という音と同時にセトモノ類が落 ております。このような大きな地震は、再び経験したくないと思いま いので、地震ぐらいと軽視しておりましたが、わが家でもほんの一・ ても役に立ちました。今までこんなものすごい地震にあったことがな すが、今回の地震で子供達がみんな努力してくれましたので助かりま た。それ以後は、大きい家具類を固定し、飲料水、食料などを用意し いきたいと思います。 した。この経験を日常の心掛としてこれからの生活に大いに生かして その日は来客があるので昼食の仕度におわれており、ガスコンロを

||| 浦河沖地震の教訓 |||

三月二十一日の朝、久しぶりに震度三の地震がありました。その四年父母 - 浦河町大通五 高 橋 久美子

考えながら毎日の生活にはげみたいと思っています。 上の大きな地震が起きても、あわてないですみやかに対処できる事を 道具で整理整頓しておくこと等色々な教訓を得ました。もし、 ツ一杯の水の汲みおきをしておくことや、家の中は必要最小限の家財 水して大へん不自由な思いをしたので、夜寝る前にやかん一杯、バケ を徹底して教えておかなくてはいけないと思います。さらに地震で断 ておくこと、子供達には、 避難場所や方法、非常持ち出し等について家族全員で話し合いをし、 た。これがもっと長く、そして夜だったらと思うとぞっとします。 玄関をあけ、子供をこたつの中に入れ、私はそばに座りこんでいまし らガタガタ、ドンドンと激しくつきあげられ、これはいつもの地震と ちょうどテレビをみていた時、グラグラとゆれだし、そのうちに下か 十七年三月の十勝沖地震のことを思い出していました。十一時すぎ 時何んとなく今日は大きな地震が起きるのではないかと思い、 っと怪我だけではすまなかったでしょう。この地震を機会に身の安全 違うな、大へんだと思い、無我無中で気がついた時はストーブを消し 度避難訓練も必要かと思いました。また、家族の所在を明らかにし 地震の時は一人でも身の安全をはかること 昭和二 これ以

とのかけ声に、過去の経験から、火を消すもの、戸を開けるもの、家地響のような音と共におそってきました。お父さんの「大きくなるぞ」ませ、テーブルを囲んで一家団らんの時でした。突然激しい揺れが、その日三月二十一日、我が家では日曜日なので朝昼兼用の食事をす四年父母 浦河町東町 清 水 葉 子

ておくこと、家具を止めておくこと、停電になるので各部屋、各自に ること、バケツを用意すること、火災にそなえて風呂に常に水を入れ 思いかけないこのでした。地震の教訓ですが、断水にそなえて貯水す 達からの励ましの言葉や、お見舞、古い人達からの音信や電話の声等 間であったことだと思います。我が家も食器や家具の被損、 には被害が少ないのは、過去の経験が生かされ、日曜日で、 止めること。一、戸を開けること。一、名を呼び合うことです。 震もいつ迄長く無気味に続いています。私の家の地震対策は、一グラ し長い間ゆれていたらどうなっていたかと思うとぞーっとします。余 **六の烈震は、やはりこれまでのゆれとはちがうと思いました。もう少** のですが足や腕等あっちこっちに切りキズや打撲がありました。震度 るスピーカーを背中に受てけがをしてしまいました。後で気がついた てしまい、息子をかかえて名を呼び合っていましたが上から落ちてく 私は茶の間のリビングボードを押えましたが押え切れずにひざをつい **具を押えるもの、ガスを止めるもの、高い所から物を降すもの等々、** 地震はいつ、どこで起こるか判らないものです、 ラジオの用意をしておくこと。ガスボンベが倒れないように太いクサ かい中電灯を用意すること。外部の情報をキャッチするための電池式 したけがもなく不幸中の幸であったと思います。地震でたくさんの人 土台のずれ、集合煙筒が二つに折れるなどの被害はありましたが、大 ッときたらあわてて外へとび出ないこと。一、火を消すこと。一、ガスを リで止めておくこと。石油タンクの足を土の中に入れて安定させると て行けば、きっと、どんなことがあっても頑張っていけると思います と等です。いざという時、 家族の努力のもとに近所の人達と助け合っ 日頃から関心をもっ 家の亀製 しかも昼 烈震の割

の世の終りと感じた一瞬

お昼の仕度をしようと廊下から部屋へ入ろうとした時グラ 四年父母 浦河町旭町 古 क्त 法 代

うか』そんなことを思っているうちにドシンと床にたたきつけられた った。『大きな地震だ。いつおさまるのだろうか、この世の終りだろ 本棚が倒れ、 ちに、やかんごとひっくりかえったと話していた。落ち着いてあちと 消していてくれたが、主人もストーブの上のやかんを押さえているう いお尻をさすりながら茶の間へ行ってみると、幸い主人がストーブを た。すぐには起き上ることができない。ようやく地震もおさまり、痛 ぶざまに床にたたきつけられ、びてい骨をいやという程打ってしまっ ちを見まわすとタンスが折り重なるように倒れ、人形ケースが落ち、 ッと揺れた。 をつけたらよいのかしばしぼう然としてしまった。ともかく家族全昌 なことのような気がした。さらに今回の地震で人の心の暖かさをとん の中でも上から物が落ちてこない場所でじっとしているのが一番無難 物が倒れ、こわれた地震を私は経験したことがない。今回の地震で思 回の地震のことが放送されてくる。震度六だという。かつてこんなに ストップする中で、充電式のラジオは有難い。こんな中でも刻々と今 無事だったことを何よりとして、まずラジオをかけた。停電、電話も ステレオのプレーヤーはとび出し、窓ガラスも一部割れ、どこから手 人形もガラスもちりぢりにとび散っていた。テレビや蛍光灯も落ち、 あの日、 地震が起きたらまず火を消して戸を開けること、そして家 部屋の中はメチャクチャになって私は何も考えられなか 次の瞬間ドンという感じで大きく揺れだした。タンスや

> 詆 なに感じたこともいい経験になった。ふだん年一度の年賀状くらいの つきあいの友人、知人、思師、 小包にとても勇気づけられたことを忘れることができな 親類の人から続々と届いたお見舞、電

抽 0 体 験

五年父母

浦河町東通

吉

田

わい、 で、 回のを此べてみるとゆれ方ひとつをとってみてもただただ驚くばかり 地震で火事が出なかったこともひとつの驚きです。今までの地震と今 かた付けで精神的にも肉体的にも本当に疲れたことと思います。この 居たことを恥かしいと思いました。 なく使っている水がこんなにも大切なものかと、今まで無駄に使って との地震で自分が教訓として得たものは水の出ない生活でした。 何げ な夜を迎えましたがその間にも余震が何回も続き本当に大変でした。 話 のかわからない程の家財の散乱ぶりでした。たちまち電気が消え、電 は大変なものでした。家へ入るなり見たものは何から手をつけて良い をしており、子供一人に留守をさせでいました。「その一瞬」の驚き などをことごとくしばり付けるようにしました。 地震のたびにゆれ動くここの団地は地盤が悪いとのことなので家具、 は、いうにいえない恐しい経験でした。ちょうどその日、私達は留守 とですが、その現実をまともに見ることはもっと恐ろしいことです。 人間何ごともなく過すことのできることが一番のしあわせです。自然 昭和二十八年の十勝沖地震では、自分が生まれて初めての恐怖を味 おまけに火もなく、主人は仕事先へ行ったきり戻らないまま不安 思い出すのもいやな感じです。火事も恐しいし、地震も恐しいこ 山の上へ逃げた記憶をいつも思いだしていました。それからは 浦河の住民は毎日地震のための後 そして今回の地震

ちにまたまた大きな被害を受け、本当に疲れてしまいました。 うな体験はもう味わいたくはありません。 起きて早くも二ケ月、 というものはあわただしく過ぎてしまい復旧工事も終るか終らないう を味わい、恐怖を覚えたことと思います。去年は水害もあり、 の力とはいえ、いつ何が起きるかわかりません。子供達も大変な経験 ようやく落着きを取戻してきましたが、 あのよ 一年間 地震が

高かった防災意識 *******

来たのか最近では地震雲を見分けることを覚え、それが奇妙にあたる 授業を受けていた。その時、 ことを思い出している。当時私は浦河小学校の五年生として午前中の のには驚きである。いま昭和二十七年三月四日に起きた十勝沖地震の で地震をあてるのにテレビの速報に目を向けている。何処からきいて **未だなお続く小規模な地震に子供達もすっかり馴れた様子で、姉妹** 五年父母 木造校舎の白壁は落ち、ガラスは割れ、 浦河町入舟町 西 力

日であったことにそっと手を合わせていた。 要があるのではないかと思う。なにはともあれ、 う一度家庭も、そして社会も一体となり防災体制を総点検してみる必 れが凶器となり人災として被害を大きくすることを教えてくれた。も いる店舗、 を防ぐことが出来たと思う、またこの地震で、ガラスを多く使用して 置づきのものが多く使用されているが『グラッときたら火を消せ』の ではないかと思う、新築住宅の耐震備造と同じく、ストーブも耐震装 恐ろしいのは死者を出すのは別としても、二次災害による火災の発生 の作業で何日も子供とは顔を合せることができなかった。地震で一番 部屋の跡片づけもそっちのけで町役場へ直行し、早朝から夜遅くまで の踏み場もなかったが、まず人身事故がなかったことに一安心、 間違いなしといったところ。シャンデリアが落ちるなど部屋の中は足 家の事が心配で車を走らせ数分で家へ着いた。おそらくスピード違反 合言葉が町民に浸透し、ストーブ、ガスの元栓を閉めたからこそ火災 住宅、さらにブロック塀、 自動販売機など、災害時にはこ 三月二十一日が日

浦河沖 地震に思う

五年父母

浦河町大通二

部

亜治子

倒れ、 火を消し、物の落ちてこない壁陰に立って、 ことが頭に浮かび、揺れている中を夢中で我が家に走り、ストーブの もとは違う何かを、感じました。隣家に居ました私は、すぐ『火』の ました。恐らく私が走って帰る間の事でしょう、たんすが向い合って 『地震』と思った時の瞬間、 ガラスが割れて中の物や上からの物等足の踏場もない程に、飛 何かドンという異常な揺れ方に、い 地震のおさまるのを持ち 阿

は

長女と、

は昭和二十七年の方が強烈であったと錯覚している。今回の地震当時

おじいちゃんを留守番させ、西舎へ行っていたが、我が

石炭を燃料としていたときだけに、火災、死者がなかったことが不思 常盤公園に暗くなるまで避難した記憶がある。木造建築が多く、

数字的には今回の地震が最高とされているが、私

の続くなか、毛布と少々の食糧、水筒、懐中電灯などをもって現在の め跡のようであった。津浪警報が出され、海岸に近い私などは、 物でないため、数多くの倒壊、大破する建物があり、まるで戦争のつ

薪と

集合煙筒は倒れて、まったくのパニック状態であった。

耐震備造の建

議であると同時に、

このことだけは守って行きたいと思っております。
 大通りでも此較的地盤の良いこの地域での被害は、蛍光灯が落ちた程度のことでした。たんすが、倒れるなどということはよほどのことでじめて今回の浦河沖地震の大きさを痛感致しまた。後かたずけをし度のことでした。半ば、習慣化している『地震』イコール『火やガスを消し戸を開ける』ことが最小限私達に出来ることですが、されからを消し戸を開ける』ことが最小限私達に出来ることですが、となどを早まが、のことだけは守って行きたいと思っておりますが、とれることではいる。

一瞬の恐しさ

六年父母

浦河町大通四

Ш

弘

子

階に行ってみると、子供達はテーブルの下で泣き叫び、物はとび散り 今までの地震なら「あっ地震だなあ」と割に平然としていましたが、 子がファミリースポーツセンターに遊びに行っていてなかなか帰って 店の品物は台ごとひっくりかえったり、ほうぼうに散らばっており、 地獄のような一瞬の出来事でした。揺れがおさまってから見回すと、 るのではと思うほどの大きな揺れ。どうやって階段をあがったのか二 ブの火は習慣ですぐ消しましたが、物の落ちる音、 今回の地震はとても恐しくて生きたここちがしませんでした。ストー ひっくり返って倒れ、 ウインドーの大きなガラスはメチャメチャにこわれて散乱し、ドアは こないので、もしやけがでもしたのではと考えるといてもたってもお しまいそうな様子に涙も出ずにただ茫然としていました。 自然の力の恐しさをみせられた思いの三月二十一日の浦河沖地震。 店の前面の柱は揺れて右に傾き今にもつぶれて 家が今にもつぶれ おまけに息

られず、無事に顔を見たときにはほっとして力がぬけてしまいましたられず、無事に顔を見たときにはほっとして力がぬけてしまいました。これだけの地震で家は破損し、物はこわれ、失ったもしまいました。これだけの地震で家は破損し、物はこわれ、失ったもしまいました。これだけの地震で家は破損し、物はこわれ、失ったもしまいました。これだけの地震で家は破損し、物はこわれ、失ったもしまいました。これだけの地震で家は破損し、物はこわれ、失ったもしまいました。これだけの地震で家は破損し、物はこわれ、失ったもしまいました。これだけの地震で家は破損し、物はこわれ、失ったもしまいました。これだけの地震で家は破損し、物はこわれ、失ったもしまいました。これだけの地震で家は破損し、物はこわれ、失ったもしまいました。これだけの地震で家は破損し、物はこわれ、失ったもしまいました。これだけの地震で家は破損し、物はこわれ、失ったもにはいました。これだけの地震で家は破損し、物はこわれ、失ったもしまいました。これだけの地震で家は破損し、物はこわれ、失ったもしまいました。これず、無事に顔を見たときにはほっとして力がぬけてしまいました。これでは、無事に顔を見たときにははいました。これず、無事にはいました。これず、無事にはいました。これがはいました。これが、無事にはいまいました。これが、ためにはいました。これが、またいました。これが、無事にはいました。これが、またいまでは、またいまたいまでは、またいまでは、またいまでは、またいまたいまでは、またいまでは、またいまでは、またいまには、またいまたは、またいまたいまだが、またいまでは、またいまだいまだが、またいまたいまたが、またいまたいまだが、またがは、またいまたいまたいまたが、またいまたが、またいまだいまでは、またいまでは、またいまたいまでは、またいまたいまたが、またいまたが、またいまたが、またいまたいまたが、またいまたが、またいまたが、またいまたいまたいまたが、またいまたいまでは、またいまたいまでは、またいまでは、またいまでは、またいまでは、またいまではいまたいまたいまでは、またいまでは、またいまでは、またいまでは、またいまたいまでは、またいまでは、またいまでは、またいまたいまでは、またいまでは、ま

あっ、この揺れ方は!

ドで横揺れの中、立ってはいられなかったが、今、同年代の我が子達泊り込みの旅行の用意をしていた矢先、ドーンと身体に強いショック・なく以前にも増して、下から突き上げられる強い揺れに立っているのなく以前にも増して、下から突き上げられる強い揺れに立っているのがやっとであった。十勝沖を体験したのは小学校三年の時で、グランがやっとであった。十勝沖を体験したのは小学校三年の時で、グランがやっとであった。十勝沖を体験したのは小学校三年の時で、グランがやっとであった。十勝沖を体験したのは小学校三年の時で、グランがやっとであった。十勝沖を体験したのは小学校三年の時で、グランがやっとであった。十勝沖を体験したのは小学校三年の時で、グランがやっとであった。十勝沖を体験したのは小学校三年の時で、グランがやっとであった。十勝沖を体験したのは小学校三年の時で、グランがやっとであった。十勝沖を体験したのは小学校三年の時で、グランがやっとであった。十勝沖を体験したのは小学校三年の時で、グランとといいた。

だ。揺れが静まり家の中では各自の上靴、毛糸の帽子、ヘルメットを し」痛感させられた該である。 えなければ。今回の地震で得た私の教訓である。「備えあれば憂いな どう対処出来るだろうか。最小限にくい止めなければ…。明日から備 きな地震だったら?悪い結果のことばかりが頭をよぎる。不可抗力に 中電灯を用意した。地震には慣れすぎていなかったろうか。もっと大 耳におびえていた自分を思い出し余震が強くないことを念じながら懐 夜七時頃、 まず水の確保に努めるがポリタンク一個分で水道が止まってしまった 用い、ガラスの破片や上からの落下物に備えた。断水になるのでは? が私達の目前の道路でピタッと停る。アスファルトに亀裂が生じたの 人と一団になった子供達が声を掛けてきた。柏団地からのハイヤー 主人は早速津波情報のためラジオのスイッチを入れる。十勝沖の時は 伝えが脳裏をかすめた。「お母様おいで、そっちは危いから」と、主 は立ってはいるもののいつもと違う縦揺れにふと直下型地震の恐しい 強い余震で一斉に停電になり暗黒の中で不気味なうなりを

身に みた 教 訓

六年父母

浦河町常盤町

沢

田

稔

は

常盤町は地盤が悪いので地震には慣れっこになっていた。『明け方に でいた。十一時三十分頃ぐらぐらと揺れた。浦河は地震が多く、特に 底からおし上げるように揺れた。みるみるうちに家具が倒れ始めた。 怪我をしようが物が壊れようと、まず火の始末をしなくてはならない もあったなあ」といった感じでいると突然大きく揺れ、上下左右に地 三月二十一日、 いつもと変わらないのんびりとした日曜日を楽しん

> 今後も避ける事のできない恐しい地震の多発地区に住む我々にとって もし平日であったら果してそのような記事が書かれていただろうか、 ていた。しかし、このような大きな地震が真夜中に起こっていたら、 そんなものは何の役にも立たなかった。津波の知らせに広報車が廻っ 背の高い家具が家においてなかったこと、 く記載されていたが、どれも町民の地震の対処のしかたの良さを書い ても味の濃い経験でもあった。テレビや新聞で浦河沖地震の記事が多 じた教訓であった。それと同時に隣人の愛を深く感ずる事のできたと ている避難袋が家にとってはふだんの心がけの大切さを身にしみて感 てきたが、その後の状態がつかめずとても不安であった。常識とされ やたんすを針金で止めるようにしていた、しかし、今回の震度六には がなかったことくらいしか記憶にないが、それ以来地震に備えて戸棚 に十勝沖地震にあった。机の下に避難し、怪我人が出なかったことや 元栓を止めたあと、はいながら外に出た。私が小学校一年生の授業中 と思い、あちらこちらにぶつかりながらストーブの火を消し、ガスの 頭で考えていることを実行に移すという大きな課題があると思う 今のような間口の広い店舗

震は恐怖感の強かったことがうかがえます。 浦河町は地震の多いところで、震度三程度のものはよくある があったことも事実だろうと思いますが、さすがに今回の烈 『たいしたことはないだろう』という、馴れの気持ち

死亡事故や火災事故など一件も発生しませんでしたが 過去の教訓、特に十勝沖地震の対策が日常生活の中に生

それぞれ工夫が生かされているようです。

或は固定の方法、家具や調度品を置かない部屋の確保などにと考えられます。そのことは、家の建て方や家具のおき方、かされていたことがこのような結果になってあらわれたもの

であったらどうなったでしょうか、 "かい中電灯を常いておしているようです。「我が家の避難場所をきめてある」という家庭もみられます。しかし、かつての十勝沖地震にしたいう家庭もみられます。しかし、かつての十勝沖地震にしたいう家庭もみられます。しかし、かつての十勝沖地震にしてある。 (急救品を準備してある。 "衣類をそろえてしてある。 (急救品を準備してある。 "衣類をそろえてしてある。 (急救品を準備してある。 "衣類をそろえてしてある。 (急救品を準備してある。 "衣類をそろえてあるとにおいて寝ている。といっただけでは解決しない面が枕もとにおいて寝ている。といっただけでは解決しない面が枕もとにおいて寝ている。といっただけでは解決しない面が枕もとにおいて寝ている。といっただけでは解決しない面がが大切ではないかと考えられます。

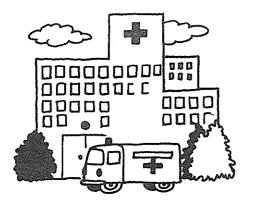
想の中で語られています。うです。やはりふだんの心がけが必要なことが多くの方の感心配のないストーブの使用なども考えてみることが必要なよようです。更にガスの元栓をしめることや転倒しても発火のようです。更にガスの元栓をしめること』は習慣化されていた「第一にストーブやガスをとめること』は習慣化されていた

どの確保とともに考えさせられる点です。いてはみんながまいったようです。電池式ラジオ、食糧品なことを指摘している人も多くみられます。指に水の問題につ・電気、電話、水道など、文明の利器に生活が馴れすぎている

うです。

「年賀状をかわしている人から見舞の電話をいただいて感激を感じた人も多いようです。もっと身近かな地域隣人との協を感じた人も多いようです。もっと身近かな地域隣人との協

ととが必要です。という言葉をもう一度かみしめてみるがともなわなければどうにもならないようです。『災害は忘がともなわなければどうにもならないようです。『災害は忘れた頃にやってくる』という言葉をもう一度かみしめてみるがともなわなければどうにもなら、急救箱が役にたたな災害への馴れから、せっかく心がけていたのにかい中電灯や災害への馴れから、せっかく心がけていたのにかい中電灯や



浦河沖地震に対する児童の行動と意識に関する調査

実 施 · 5 月 10 日

			学年	(男・女別)		2	(3	4		5	5	(3	中	1	ą.	H	合 計
内容					男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
在	籍	児	道	数	53	63	58	55	50	59	45	48	75	54	45	45	326	324	650
回	答		者	数	51	60	56	54	48	58	40	46	72	53	43	42	310	313	623

- ・障害児学級の児童分は親学級にくりいれて集計してある ・調査期日が5月になってからなので、2~5年と中学校1年(地展発生時の在籍にあたる)を対象として実施している

1. 3月21日はおやすみでした。浦河沖地震の時はどこにいましたか

7.	自	分	Ø	家	ΙC	ζì	た	37	38	36	29	26	35	20	26	46	34	18	32	183	194	377
1.	外	出	l	,	て	()	た	5	12	8	12	10	16	10	12	12	4	10	7	55	63	118
ゥ.	映	圃	を	み	τ	しい	た	1	1	1	1	3	3	1	0	3	9	1	0	10	14	24
Ι.	浦	河	ic i	۲,	なか	7	た	8	9	11	12	9	4	9	8	11	6	14	3	62	42	104

- 2. "自分の家にいた"と答えた人は、次の問に答えてください
 - (1) だれといましたか

ア.	家	の	人	٤	65	7	し	£	K	ķ5	た	32 33	35	27	24 3	30	17 24	40	30	17	28 1	65 172	337	
----	---	---	---	---	----	---	---	---	---	----	---	-------	----	----	------	----	-------	----	----	----	------	--------	-----	--

ィ.	子	ع	₽	だ	け	で	留	守	番	を	し	て	ķ	た	5	5	1	2	2	5	3	2	6	4	1	4	18	22	40	

(2) 地震の時どうしましたか

										,,										
ア. ス	Р —	ブ あ	火を	消し	た	10	10	17	11	10	12	6	8	13	10	8	15	63	66	130
イ. ガ	ス	を	٤	め	た	2	4	4	4	3	5	1	6	3	3	3	2	16	24	40
ウ. 玄	関や	窓の	戸を	あり	た	7	9	5	6	4	5	4	7	12	5	3	9	35	41	76
エ. す	(*	外	^	で	た	5	3	8	3	3	3	4	4	8	3	1	2	29	18	47
オ. (ア) 机	や テ ー	ブル	の下へ	もぐっ	た	5	2	0	2	2	7	3	0	4	4	0	1	14	16	30
(1) F	のま	ます	わ゛っ	てい	た	3	4	0	1	1	0	1	0	1	5	0	0	6	10	16
(ウ) 玄	関	~	. اد	げ	た	0	1	2	0	1	0	0	0	. 0	0	0	0	3	1	4
(エ) 頭	にざ	ぶ と	んを	のせ	た	4	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	4	3	7
(オ) 物	を :	き は	え	C γ)	た	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	2	4	6
(カ) 屋	上	IC	ΙC	げ	た	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	. 1
(牛) テ	ν	ビ	を消	L	た	0	0	0	1	2	0	0	0	2	0	0	0	4	1	5
(ク) お	しい	ħ	ic it	いっ	た	0	0	0	0	- 0	1	0	0	1	0	0	0	1	1	2
(ケ) 廊	下		łC	ψy	た	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	2
(3) マ	y ŀ	レス	を か	ぶっ っ	た	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
(#) ^	やの	す	みへ	に げ	た	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1

(3)物	の	落	ち	て	۲	な	٧١	所	^	łζ	げ	た	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1
(ス) テ	レ	t	,r	を	台	か	1	Ġ	お	ろ	し	た	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
(セ) そ	の	辺	を	う		5	う	ろ	U	τ	٧١	た	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
無				vara.		****					J.1111111	答	0	1	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	2	4	6

3. 浦河沖地震でけがをしませんでしたか

ア.(ア) だ			···			æ					<	0	1	2	0	0	2	2	2	3	2	0	1	7	8	15
(1) き				り				ㅎ		11.000	ず	0	1	2	2	0	1	1	2	4	4	2	1	9	11	20
(ウ) ガ	ラ	ス	の	は	^	ん	が	3	8	2	た	0	2	1	1	1	0	1	1	1	6	0	0	4	10	14
(エ) 足		<i>₹</i> -			<		じ	***************************************	٧١	1	た	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	1	3
(オ) や						ゖ					بح	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	2
(カ) 物	の	間		ΙC	手	を		す	3	め	た	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
件) 小		ž	盲			の	·····		骨		折	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
ィ. し		7	な			か	**	*****	2		た	49	56	50	50	47	54	34	41	61	39	41	38	282	278	560
無							***************************************		*****		答	1	0	1	1	0	1	2	0	0	0	0	1	4	3	7

4. ふだん、おとうさんやおかあさんから、地震の時には、"どうしなさい"といわれていますか

ア.	ストーブやガスをけすようにいわれている	19	14	11	15	19	20	13	21	30	28	21	17	113	115	228
1.	家の人にいわれたとおり行動するようにいわれている	13	13	13	11	4.	7	6	8	6	4	2	6	44	49	93

	7	á	11	10	4	3	6	4	6	10	6	4	4	35	37	72
ウ. すぐ外へでるようにいわれてい	-	4	11	10	4	-		4		10			**	00	- 1	12
ェ. 家の中で机やベッドの下へもぐるようにいわれて	ハる	12	19	16	20	19	23	13	11	19	11	13	12	92	96	188
オ.切あわてないで、おちつきなさ	· 67	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
(1)その場所ですわってまちなさ	ţì	1	0	0	0	U	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
労玄関へ行ってようすをみなさ	ζì	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	2	3
エストープから離れなさ	ķ١	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
分戸 や 窓 を あ け な さ	ţì	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	4	q	4
切物 の 落 ち な い 所 へ に げ な さ	Ļγ	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	3	1	4
(4) 高い建物や家具などのそばを離れなさ	¢١	0	0	0	0	1	0	0	0	<u>'</u> 0	0	0	0	1	0	1
(が)安全な場所へにげなさ	ķì	0	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0	1	3	2	5
かけ がを しない ように 注意 しなさ	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
口すぐ外へでないように しなさ	ψì	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	. 2
一 	ţì	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	3
(3物 をおさえないように しなさ	ري :	0	0	, 1	0	0	0	0	0	Ó	0	0	0	1	0	1
スー 部 屋 に 集 り な さ	ÇΝ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
他テレビや電源を きりなさ	()	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	2
())ざぶとんを頭に のせなさ	ţì	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	С	1	1

(g) ^	ル	,	*	ッ	١		を	か	نځ	: 1	b	な	ざ	()	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
(升) 机	Ø	上	を	٠ţ٠	د	b :	かた	こず	け・	7 :	i d	t t	ž ž	ψ×	0	0	-0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1
(ツ) 寝	る	時	は	衣	服	を	ま	ک ع	5 T	:	ं र्ज	€ t	1 3	۲. ب	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
(テ) 弟		を	7)	n		7	ıc	け	,	な	č	ž	٤١	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1
(1)外	17	V	<i>†</i> .	: 1	場	合	は	す	¢*	帰	b	な	ざ	ķ	0	0	0	0	0	.0	0	0	0	1	0	0	0	1	1
無												***************************************		答	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	4	1	5

5. 3月21日の浦河沖地震のあと、「21日のような大きな地震が、またあるぞ」という、うわさがながれたといわれています。 あなたはそのうわさを聞きましたか。

7.	聞	 ζì	た	۲	٤	か	あ	る	39	45	45	47	41	55	37	43	68	50	38	39	268	279	547
1.	聞	٧١	た	۲	٤	かゞ	な	6.4	12	14	11	7	6	2	2	3	2	2	5	3	38	31	69
	無							答	0	1	0	0	1	1	1	0	2	1	0	0	4	3	7

7.	うわさのとおり地震があると 思っていた	1	5 17	18	17	11	13	6	16	16	18	8	16	74	97	171
1.	うわさなので大きな地震はないと思っていた	1	1 12	11	16	15	15	22	18	29	11	18	10	106	82	188
ウ.	うわさを信じていいかどうかわからなかった	1	3 16	16	14	15	27	9	9	23	21	12	13	88	100	188

6. 浦河沖地震のあとで、これから気をつけたいと思った点があったら、書いてください

						-7-									-	*****
1.	落着いて行動し、	さわがないよう	にしたい	2 9	19	9	7 16	9	8	13	10	14	13	64	65	129

								· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·								
2.	さわがないで 静かにゆれのおさまるのをまつようにしたい	0	3	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	5	7
3.	一人で判断してきちんと行動できるようにしたい	0	0	0	0	0	2	0	0		1	0	0	0	3	3
4.	落着いて父母や大きい人のいうことを 聞くようにしたい	0	0	0	10	2	2	0	7	10	4	1	1	13	24	37
5.	すぐ外へ出るのは危険、ようすをみて行動するようにしたい	0	2	0	0	1	2	3	2	3	3	1	4	8	13	21
6.	外へでても建物やへいのところへは近よらないようにしたい	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	1	5
7.	安全な場所を選びけがをしないようにしたい	0	2	12	13	4	0	4	1	0	2	2	1	22	19	41
8.	ストーブやガスを けすようにしたい	13	9	2	2	5	11	3	7	21	10	15	8	59	47	106
9.	机やベットの下へもぐるように心がけたい	13	13	0	0	8	13	12	10	10	8	2	1	45	45	90
10.	戸や窓をあけるように心がけたい	0	0	0	1	4	3	0	0	. 8	3	0	5	12	12	24
11.	物が倒れたり 落ちたりする所へいかないように心がけたい	2	0	0	0	0	1	2	3	2	4	2	1	8	9	17
12.	かい中電灯、食べ物、急救箱を 準備するように心がけたい	0	2	0	0	0	2	0	2	0	1	0	0	0	7	7
13.	寝る時は衣服をたたみ、 かい中電灯を枕もとにおくようにしたい	0	0	0	2	1	1	1	1	0	0	0	2	2	6	8
14.	われる物は床に置いてざぶとんをかけるように 心がけたい	6	0	0	0	0	0	0	0	.0	1	0	0	6	1	7
15.	家具など倒れるものから離れるように心がけたい	0	0	0	0	0	0	0	0	·1	0	0	0	1	0	1
16.	いざという時はヘルメットをかぶるように心がけたい	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	2
17.	小 さい者の面倒をみるように 心がけたい	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	1	3	4
18.	食器棚など家具をおさえるように心がけたい	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	2	1	3
1		<u> </u>		-1		<u> </u>										

19.	電源をきったりテレビをけすよう心がけたい	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2
20.	身のまわりをいつも整頓するように 心がけたい	0	0	. 0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	C	1
21.	外出している時は家へ連絡するようにした い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1
22.	学校の避難訓練に真面目に参加するようにしたい	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1
無	答	15	19	18	16	14	4	3	5	3	2	3	4	56	50	106

7. 浦河沖地震の感想を、かんたんに書いてください

						, , ,									,	
1.	今までの地震とはちがって、とてもおそろしかった	18	30	21	23	19	18	14	16	31	27	22	23	1 25	137	262
2.	とても大きな地震なので、びっくりした	5	1	4	3	7	6	8	6	6	3	3	3	33	22	55
3.	死ぬのではないかと思って、心臓がどきどきした	0	0	0	1	1	1	0	2	1	2	3	1	5	7	12
4.	地 麗が、こんなにおそろしいとは 思わなかった	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	1	3
5.	こんな地震がくるとは、 信じられなかった	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	1	3
6.	こんどの地農は、まるで 夢のようだ	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	2	1	3
7.	生れてからはじめての大きな地震だっ た	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	4	4
8.	今までにない地震で、すどかった	1	0	0	0	1	3	0	2	0	0	0	0 1	2	5	7
9.	家の中にいたらけがをしたかもしれない	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	3	q	3
10.	もう自分の家にすめないと思った	0	0	0	1	1	٥٠	0	0	0	0	1	0	2	1	3
11.	どこにいても危険だと思った	0	0	0	0	2		0	0	0	0	0	0	2	O	2

12.	今までとちがって長くゆれたのでもう死ぬかと思った	0		0	n	0	2	6	3	4	1	0	n	7			
13.	今まではそんなに地震をおそろしいとは思わなかったが、こんどはとてもおそろしくなった	0			0	0			0	0		0					
14.	隣のトイレがあふれたので 外はあぶないと思った	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
15.	地割れができてとてもおそろしかった	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	2	
16.	地割れの中へすいこまれるのではないかと思った	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	
17.	胸をどきどきさせながらいすの かげにかくれた	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	U	0	1	0	1	
18.	テーブルの下へもぐってもけが をすると思った	0	0	2	0	0	٥	0	0	0	0	0	0	2	0	2	
19.	裏山がくずれて家がつぶれ ると思った	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	2	
20.	家がつぶれると思った	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	2	3	
21.	家がつぶれそうなので外へ飛びだした	1	0	0	Ô	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	Ş
22.	今どの地麗では、外へ出るのがおそろしかった	1	0	0.	1	1	o	0	2	1	1	0	2	3	6	9	
23.	壁にきれつのできるのが みえた	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
24.	かい段から落ちそうになった	0	0	1	0	0	o	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
25.	ピアノが動くので びっくりした	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1
26.	地球にひびができるのではないかと思った	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	
27.	地 殿のあともしばらく ふるえていた	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	2	
28.	「ソファへいけ」といわれたが動けなかった	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	ī	

				,		~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	1		_dc	,		p. ~:				
29.	一人で寝るのがとても おそろしい	0	1	۵	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	ì	1
30.	地麗の時やかんをもっていたのでおそろしかった	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
31.	まっさおになったので母に「大丈夫か」 と言われた	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	Ø	0	Û	1	1
32.	思わず兄にしがみついた	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
33.	家具をおさえるのは あぶないと思った	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
34.	大きな物のそばは あぶないと思った	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
35.	外へでる方が あぶないと思った	3	1	1	2	2	7	1	5	6	3	3	2	17	19	36
36.	家の中がぐちゃぐちゃ になった	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	2	2	4
37.	たんすなどめちゃめちゃでかたずけるのが大変だった	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
38.	津 波 が き た の で お そ ろ し か っ た	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	1	3	2	5
39.	お友達を助けてあげた	1	1	٥	0	0	0	0	Ö	0	0	0	0	1	1	2
40.	余農がすごかった	0	0	0	0	0	0	1	Q	Õ	0	pre.A	1	2	1	3
41.	父母がいなかったのでとてもおそろしかった	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
42.	よそへ行っていたので父母のことが 心配だった	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
43.	兄が一人で留守番していたので心配だった	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
44.	高い所はとてもゆれのはげしい ことがわかった	0	0	0	0	0	0.	2	0	0	0	0	0	2	0	2
45.	おそろしかったがめったにない体験だった	0	0	0	Ò	0	Ò	1	0	2	0	0	0	3	0	3

46.	維河がせんめつするのでは ないかと思った	<u>ا</u> 0	T 0	o	0	1	٥	o	0	2	٥	0	۵	3	0	3
		 '	0	U	- u										-	
47.	地震で浦河が有名になった	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	2	3	2	7	9
48.	自転車に乗っていたらどうなっただろうと思っ た	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
49.	車の中にいたのでどうしたらよいのかわからなかった	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	2	1	3
50.	何をしてよいのか わからなかった	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	2	2	3	5	8
51.	地震のない所へいきたい	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1
52.	ゆれ方がはげしくてすごいと 思った	0	1	٥	0	0	1	0	0	3	2	0	0	3	4	7
53.	そんなにおそろしいとは 思わなかった	1	*	0	0	0	2	2	0	1	0	0	0	4	3	7
54.	電信柱のゆれるのが おもしろかった	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	r)	2
55.	おそろしかったが追力 満点だった	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	2
56.	とんな地震なら何回あ ってもよい	C	0	0	0	. 1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	į
57.	こんな地震は二度と無い 方がよい	C	1	2	3	1	6	0	2	2	3	0.	2	5	17	22
58.	また大地殿がくるのではないかと 思った	3	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	2	6
59.	どう表現していいのか わからない	·	0.	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	0	4
#	Į A	14	19	16	13	4	1	1	3	5	1.	2	1	42	38	80

浦河沖地震に対する父母の行動と意識に関する調査

配布 5 月 7 日 - 集約 5 月 11 日

					•						.,	• • • • • •	-	-14 114		
内	 容							学	年	1	2	3	4	5	6	合 計
	家		A1100000041100		庭				数	4 6	5 4	68	77	8 9	1 2 1	455
	回				収			1	数	4 3	4 7·	63	7 4	8 2	116	425
	_		- i2	入	者	******			,			i		,		
					父					7	8	10	1 4	1 1	2 4	7 4
		<u>.</u>		-	母					3 6	3 9	5 2	60	7 1	8 5	343
	そ				の				他	0	0	1	0	0	7	
1.	浦河沖	地震の時	、どこに	いましたか	**************************************					•		<u> </u>		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
*	自		宅		łζ		ķ١		た	2 0	3 3	3 7	4 3	5 0	78	261
ſ.	外	į.	Ъ	し	7	-	い		た	1 1	9	1 3	2 2	16	1 7	8 8
7.	浦	河	ΙC	ķ٦	な		か	っ	た	1 2	5	1 3	9	16	2 1	7 6
2.	自宅に	いた方は	、地震発	生と同時に	一番先に	したこと	はどん	なことで	ですか					•		
7.	ス	٢	_	ブ の	火	を	消	し	た	5	15	16	18	2 3	5 4	131
ſ.	ガ		z	を	بے	Ξ.	හ		た	3	3	1 0	9	1 2	10	4 ′
ウ .	玄	関	の	戸や	窓	を	あ	け	た.	2	4	6	3	3	5	2.3

		AM1																									
工.	外			****		~							で							た	2	3	0	2	0	3	1 0
オ.	(ア) ま		つ	7.	Ξ.	<		9	動		け		な		か	,		7		た	2	2	0	1	2	3	1 0
	(1)物	が	倒	れ	た	b i	答	5	て	۲	な	Ų.	١	部	屋	^		K	げ	た	0	2	0	0	0	0	2
	(ウ) 家		具		を		お			さ		ž	<u>.</u>		τ		ţ	۱,		た	3	2	2	4	6	2	1 9
	(エ) 幼	児	から	=	階	ł		しい	た	Ø,)	で	か	r,	ł,	あ	か		2	た	0	0	0	1	0	0	1
	闭子	۽ مع	১ ব	安	全	な	٤	۲	ろ	~	K	が	す	の	łζ	無	中	だ	つ	た	0	0	0	1	0	0	1
	(カ) 店	7	C.	商		品		を		お		ð		え		τ		¢١		た	0	0	0	0	0	1	1
	無																			答	3	2	3	4	4	0	16

3. 浦河沖地震の時、どのような避難方法をとりましたか

																			1	
7.	そ	の		ま	3	ま	家	の	中		łC	い	た	1 7	28	23	5 1	4 2	62	2 2 3
ィ.	す		¢*		i	IC		外	^		で		た	15	2	1 6	10	20	28	9 1
ゥ.	家	の中	で	机、	テ	- ブ	・ル	, ~	ッド	の T	· ~ ŧ	· '	った	3	8	11	5	8	8	4 3
ı.	便	所	な	ځ	七	ŧ	(v)	٤	ح ع	· ·	\ IC	げ	た	2	0	3	1	2	3	1.1
オ.	(ア) 玄	関		で	ょ	ٽ	***************************************	वे	を	み	て	41	た	0	0	0	0	0	4	4
.,	(イ) 玄	関	Ø,)	柱	ΙC	つ	か	.	2	7	6,	た	0	0	. 0	2	0	0	2
	(ウ) し	ば	ğ	·	<	L	て	か	6	外	^	で	た	0	0	0	0	0	3	3
	(工) 幼	児		の	1	 保	護	łζ	あ		た	っ	た	0	0	4	0	0	0	4
	(オ) 作	業	B	f	か	Ġ	す	<u> </u>	家	ΙC	帰	っ	た	0	0	1	0	0	0	1

		····									T		I	Ι	Ι	l .
(カ) 車	で追	五行	中	だっ	たの	で 車	. ψ ₁	らで	た	2	4	0	0	3	0	
(キ) バ	•	ス	か	6	外	^		で・	た	0	0	0	0	1	0	
りデ	パ		ト	で	す わ	, ,	て	<i>ل</i> ايا	た	0	1	0	0	0	0	
(ケ) お	‡	70	į	, ,	٤	l	7	()	た	0	0	1	0	0	0	
無					×1410-07				答	4	4	4	5	6	8	

4. 浦河沖地震で、けがをしませんでしたか

ア.	(7) 倒	れ	た	家	具	な	Ľ	で	打	撲	を	ð		け	た	1	1	1	2	1	4	1 0
	(イ) す		b		き		ず		を		う	¥.)		た	1	0	5	7	3	1	1 7
	(ウ) ガ	ラ	ス O) 破	片	な	と	で	きり	ŧ	ず	を	<u></u> う	けー	た	2	3	0	0	1	8	1 4
	(I) *P	か	ん	か	お	Ė	5 7	-	þ	け	بح	を		し	た	0	0	0	1	0	1	2
	(オ) 骨		łζ	ひ	• "	び		かゞ	は		(J		7		た	0	O.	0	1	0	0	1
1.	け		から		を		し	•	な	,	か	-5)		た	3 9	4 3	5 7	6 1	7 6	101	377
	無														答	0	0	0	2	1	1	4

5. 家屋や家財に被害はありませんでしたか。その概要を記入してください

ア. 家屋 (ア)	家	屋		から	全	惊		Ĺ	た	0	0	U	0	0	1	1
(1)	家	屋		が	半	懐	ž	L	た	0	0	0	1	0	0	1
())	家	唇	<u> </u>	から		傾		ψ, '	た	2	0	0	0	0	4	6
(エ)	集	合	煙	筒	が	倒	壞	L	た	0	0	0	0	0	1	1.

(at)	集		<u></u>	煙	······································	简		ψ <u>;</u>	Ŕ	Ā	٧١		た	1	1	0	0	0	3	5
(%)	搖	合		煙	 筒			酸		掴		<u></u> し	た	n	n	0	1	0	8	
												···-								9
(+)	理	築	<u>の</u>	部	屋	<i>t</i>)s	本	晟	<i>2</i>)>	6	離	₹ 1.	た	0	1	0	1	0	0	2
(9)	^		6,			Δ 5		倒			れ		た	0	0	1	0	0	0	1
(51)	玄	関や	基	礎(ク ョ	ン	2	ı) —	ŀ	から	破	損し	た	1	2	2	3	Ą	0	12
()	床		か			2	**	が			3		<i>†</i> =	1	0	3	4	1	12	21
('y')	外	壁	Ø	Æ	ル	3	₹ ,	v t	៨	は	から	n	た	2	1	4	2	4	16	29
	風	E	場	な	e o)	ў	イル	カ	1 12	が	れ	た	1	1	2	2	1	5	12
(2)	坐	łζ		ŧ	れ		->	<i>i</i> d.		で		à	た	1	3	. 2	6	4	13	29
(t z)	家	がく	5 -	てド	アや	癥	が完	全に	U :	ŧ ŝ	なく	<i>t</i> s -	った	5	3	5	5	6	10	3 4
())	玄	関	や	窓	Ø	ガ	Ð	ス	が	破	損	L	た	8	7	1 1	8	12	45	91
(9)	家	具。	ひ 俊	りり	ts	محط	で	壁(- 2	て カ	⁵ あ	ķ١	た	1	2	7	5	9	3 1	5 5
イ.家財切	た	んす、	本	だな	、茶	だ	んす	なと	(0	家具	, 255 c	_ b #	n た	1 3	15	20	22	29	4 6	1 4 5
(1)	ピ	アノ、	ス	テレ	才、	テ	レビ	、電	話	なと	' \$1 d	こわる	n た	1	4	6	6	6	22	4 5
(4)	蛍	光灯	, §	竞 台	、人	形	ケ -	- ス	な	F.,	がて	わま	した	4	7	i 2	10	7	15	5 5
(m)	Ľ	છ	خ	<i>†</i> :	٨	力多	使	え	な	<	な	7	た	0	1	1	2	2	3	9
(オ)	灯	油が	まか	· 12	てじ	13	うた	んが	1	更え	なく	な・	った	0	0	1	0	0	0	1
(力)	風	I	4	釜		'n		د	;	b	れ		た	0	0	0	1	0	5	6

·· •• •• •• •• •• •• •• •• •• •• •• •• •	(+)	食	器	ф	ガ	5	ス	·製	品	Ø	破	損	1/2	程。	Ŧ	3	2	4	14	18	41	8 2
	(9)						H				•		1/3	程度	ŧ	7	6	5	9	6	35	68
	<i>(</i> 57)						11		,				2/3	程质	Ĕ	1 3	1 5	1 6	14	18	58	134
	(=)				,		"						1/4	程度	Ĭ	3	1	5	13	18	15	5 5
	(y)						"						1/5	程度	E	5	3	7	10	38	39	102
	被		害		を		受		け	7	-	家	庭	3	故	4 0	4 5	5 4	70	78	106	393
ゥ.	彼		į	ž		H			rs.		þ		つ	7	3	1	1	3	2	1	3	11
4	Ħ						elli)ya-bilanoortaan						######################################	2	\$	2	1	6	2	3	7	21

・記入数が均一でないので、比の場合被害数と被害を受けた家庭数とは一致しない

	. He A	E L XT L	, <u>(</u> ,	日帝	5 W .	こう な		ニルカ	いけて	() X	ずか	<u>(O</u>	æ 2 ·	<u>ン、つ</u>	1) (: くださ	(1)					
ア.	家	具	を	倒	n	な	Ļ١	J	う	ΙC]	ند	て	あ	\$	3 6	42	5 6	69	7 5	6 5	3 4 3
۷.	資	重占	るを	す	¢	持	ち出	ŧ	る	£	う ボ	<u> </u>	J 7	あ	వ	3 1	3 1	46	4 7	6 7	31	253
ウ.	闭電	池、	ラ シ	* *	、菜	品	なと	非	常用) A	を単	係	ı	てあ	శ	0	1	1	6	0	5	1 3
	(イ) 保	有	-	食	Ź	•	準	伽	Í	し	7		あ		శ	0	0	1	1	0	1	3
	(ウ) ボ	IJ	9	ン・	7	な	EK	办	くを	<	h		で	あ		0	1	0	0	0	3	4
	(工) 身	Ø	安	全	委	第		IC	心	办法	け	*	C	ţì	る	0	1	1	2	4	4	. 9
	闭火	や!	ゲ ス	Ø	l	ま	つ を	第		化划	``	k	ナて	Ļ١	る	1	4	3	0	3	0	1 1
	かガ	スは	₹	Ø :	ىخ د	元	詮を	L	න .	るよ	う	IC.	٠L -	- 63	Z	1	1	0	6	0	0	8
A CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR	出ガ	ラ	ス (צ		-T-Ain	ル	ب	- フ	" を	は	つ	て	ð	る	Ô	0	0	0	0	1	1

(ク) 食	器な	یع	: ۲	b ∤	2 4	す (い物	はり	必 要	な	だけ	だ	し	て	あ	る	0	1	0	2	0	0	3
份や	か	ん	4	な	ベ	な	تع	は	下	łC	お	ķì	て	ž	あ	る	0	0	U	0	0	1	
(=) ~	ル	メ	ッ	۲	を	枕	元	ΙC	お	ķ١	τ	寝	て	ı	١.	る	0	0	0	0	0	1	
(サ) 家	具の	上	なと	高	い所	i ^	物	をし	置か	な	いょ	う	1C .	して	Ļ١	る	4	2	2	1	0	1	1
沙寝	室	K	家	具	を	置	か	なり	いょ	:	うに	ι	٠	7	い	る	1	0	2	0	2	3	
闪玄	関に	_ 近	į (V	部	屋に	物	を	置か	ょな	Ç١	よう	łζ	し	て	()	る	0	1	0	0	0	0	
(セ) ガ	ラ	ス	保	険	^	の	加	λ	を	検	討	し	て	j	١	る	ò	0	0	0	0	1	
(ソ) 特		别		何		b		し	~	_	61			な		()	0	3	3	8	3	0	1
無															•	答	6	3	· 5	3	4	5	2

7. 地震に対して、日常お子さんをどのようにしつけていますか(〇を2つ、つけてください)

ア.	ス	١	-	ブ	を	消	す	よ	う	ΙC	l	つ	け	て	ķì	る	28	3 7	4 2	5 1	67	99	3 2 4
1.	ガ	ス	を	٤	න	3	ょ	<u>う</u>	K	i	, -)	け	て	١,	る	5	1 3	28	3 4	4 4	7 4	198
ウ.	外	^	避	難	す	る	よ	う	ΙC	し	73	· •	ţ	て	い	る	15	1 5	27	24	28	2 1	130
工,	(ア)机、	テ	*Marin	ブル	,	ベッ	ドク	7 (へも	¢	る』	こう	し	つけ	てい	る	1 0	1 3	1 1	1 0	8	14	66
	(1) ~ "	, ド	の -	下 へ	入 -	, T	ふと	ん	をか	法	る』	: う	し	つけ	てい	る	0	0	Ū	0	6	1	7
	(ウ)押 /	への	中	に入	ŋ.	てふ	۲ ۶	しを	かふ	: る	ょ・	5 L	, つ	けて	(v	る	1	0	0	0	0	1	2
	(エ)物	の落	F ち	7 2	こな	いり	所 へ	避	難す	` ठ	ょ	j.	しっ	っけ	てい	る	1	1	4	3	2	2	1 3
	闭蛍头	七灯	やカ	げラ シ	スな	ح تح	こわに	れゃ	すし	, e	<i>o</i> 0	ے (とろ	から	、にげ	よ	0	0	0	0	0	1	1

	伪頭	łζ	ざ	Š	ځ		ン を	È ;	ρ» . γ	*	る .	k.	う	レ	つ	H	τ.	63	る	1	1	0	4	1	0	4
	出玄	関	*	> 1	Š.	苍	あ	H	3	J		ð	U	つ	け	τ	# . ~	<i>ډ</i>	ఫ	1	1	2	0	7	3	1 4
	(9) 学	習	道	具	を	持	7	て	避美	# . T	† 3	, J	(j	· L	, ,	H	τ	į, į,	る	0	0	0	0	1	0	1
	めい	⊃ ≹	,身	Ø	まれ	りり	존 :	隆 足		、カ	2 b)	中	電火	J &	持	た・	뇬-	てい	る	0	0	0	0	0	2	2
	(コ) あ	わ	7	τ	4	*	外	~	でな	£ (٦ ٢	* J	; <u>5</u>	्रे	を	み	t,	ぎ	Ļ,	0	2	1	5	1	7	1 6
	份避		難		場		所		を		à		め		7		あ		る	3	2	4	1	0	0	1 0
	约外	K	Ļ١	た	時	là.	iΓ	<	Ø	大	人	の	指	示	Iζ	l	た	拉	え	3	0	1	3	0	0	7
	以外	łζ	٧١	た	時	は	倒	れ	る(5 (D a) t.	j į) Pi	` ^	避	熟	上	ょ	1	2	0	1	1	o	5
	他外		ľζ	Ļ٦		た	ļ	ŧ	は		家	K	···	連	i	烙	Į.		£	0	0	0	0	0	1	1
	(ソ) 家	炒\$	۲	þ	れ	た	場	습	Ø	集	合	場	所	奎	콾	න්	て	<i>5</i> 5	る	0	0	0	0	0	1	1
	(タ) 地	展	ŧ	۲	b	が	è	な	Į١	ょ	う	Ų١	ţ)	N	办	난	ζ	あ	ఫ	1	ó	0	0	0	0	1
オ.	何			ģ			し			て			ę,			TS.			ζì	3	1	2	2	0	5	1 3
	無						***************************************												答	5	3	2	3	2	7	2 2

8. 浦河沖地麓のあと*もっと大きい地麓があるだろう*といううわさが流れましたが、そのようなことを聞いたことがありますか。聞いたことのある人はどのように判断しましたか

7.			Ų	3		た	3 5	3 5	4 6	6.5	6 <i>7</i>	100	3 4 8
1.	Ш	Дs	tz	ф	~ [']	た	7	7	1 3	6	1 3	12	58
	無	. Julian			And Parallel And	答	1	5	4	3	2	4	19

7.	. j	b		É	3		信		ľ	た	4	3	ı,	5	2	6	22
イ.	5	Ð	<i>ਰ</i> ੇ	套	信	Ե	な	7)2	7		12	13	13	20	19	3 2	109
ゥ.	赤	信		半	疑	で	+	あ	7	た		19	28	40	4 6	62	217

9. 浦河沖地震の経験をとおして、これからの参考になった点がありましたら記入してください

7.	人命第一、家財にとだわるな	4	2	2	5	3	2	18
イ・	二次災害をさけるふだんの心がけが大切	0	1	0	3	0	0	4
ゥ.	子どもとの対話を深めることが、大切	1	2	1	0	0	0	4
I.	子どもに恐怖感を与えないための毅然とした親の態度	3	2	1	. 0	0	0	6
.	新聞、テレビによる専門家の話に関心を高めよ	2	1	3	2	1	2	1 1
カ.	広報車、ラジオに注意、正しい報道をつかめ	0	1	2	1	0	0	4
+ .	でまにまどわされるな	1	2		3	0	1	7
7.	夜間であったら大変、対策の検討が必要	2	0	1	0	3	2	8
ケ.	身の守り方、避難のし方に対する日常の心がけ	1	0	1	0	0	2	·4
ם,	子ともや家族の行動範囲を知っておくこと	1	2	1	1	2	3	1 0
サ.	落着いて、冷静な行動が大切	1	2	5	3	6	8	2 5
シ.	いつもたいしたことがなかったという安心感をもつな	0	1	0	0	3	2	6
ス.	電話が不通の場合の連絡方法の検討が必要	1	0	0	2	0	1	4
· 4.	避難場所をきめておくことが必要	2	1	2	2	0	6	1 3

[1	1			1		
ン .	火 や ガ ス を 消 す と と が 第 一	15	13	18	10	15	18	89
9.	戸や窓をあけて待期することが大切	3	5	4	3	13	25	53
チ.	あわてて外へでることは危険、家の中の方が安 全	2	1	8	7	5	24	4 7
ツ・	子どもだけが留守をしていても、火を消すことが第一	0	0	2	1	0	0	3
ラ .	ガスはそのつど元詮をしめる習慣が大切	1	O	0	1	0	5	7
 	家具やガラスは凶器になる、 そとから難れることが必要	2	3	б	2	5	10	28
ታ .	家具が倒れたり、蛍光灯などが落ちたりしない部屋の確保	5	2	2	9	8	16	4 2
,	家具の上に物をおいたり、積みあげないてとが大切	2	1	9	3	3	1 4	3 2
ᆽ,	家具の固定補強が必要、針金よりはひもの方が有効	3	2	3	5	2	11	26
<i>à</i> .	家具の開き戸には鍵を、 引出しのものの方が有効	1	7	1	1	0	0	3
7.	危険に耐えうるふとんの敷き方が大切	0	0	0	1	0	o	1
Λ,	家 具 の 配 置 の 工 夫 が 大 切	0	0	0	0	1	1	2
٤.	ゆれ方によって家具の倒れ方が異る。 安全の察知が大切	1	0	0	0	1	0	2
7.	必要以上の家具は購入しないことが大切	0	0	0	1	0	0	1
۸.	戸棚、下駄箱に敷いたビニールのところは 案外物が落ちない	0	0	0	1	0,	0	1
* .	家庭用消化器が倒れたら始末が大変、固定が必要	0	0	0	1	0	0	1
₹.	セト物など使用分だけだして おく方が有効	1	1	0	2	1	8	1 3
3.	ストーブ、家具(備えつけ)など耐震装置 の工夫が大切	O	2	0	1	1	1	5

۵,	þ	か	ん	*	1 5	ij) ;	9	ン	2	で	水	(D	確	保	加	<u></u>	. 要	Ē	2	3	2	1 1	6	29	5 3
<i>≯</i> ,	風	呂	Q.	>	水	٤	た	; ?	Ø	τ	お		ζ.	۲		Ł	ŧ	有	刻	b	2	1	2	1	1	o	7
₹.	z)> (八中	電火	Τ,	電子	也试	ラ	ジオ	*	医薬	品	なと	. ;	上 作	月	品々	常(節が	大切	J	2	5	3	2	3	12	2 7
Þ .	か	h	-5	ક	d	<i>†</i> £	سخ	食			品	Ø		推	\$	備	加	大	Ø	7	3	2	3	1	3	7	19
۲.		階	は	VФ	‡ 1)\$ {	y	관	ķ٦	が		ğ	皆	J.	Ð	は	安	£	2	0	0	0	1	0	1	2
2.	枕	ŧ	占	łζ	衣	服	を	Ť	. 7	5 <i>i</i>	-	ζ !	凄	る	習	访	か	7	Ų	1	1	0	1	0	0	0	2
r.	柱	Ø	四	2	本	あ	る	솬		ま	41	논	ł	-	ろ	カ	\$	安	ŝ	2	0	0	0	1	0	0	1
Э.	外	~	で	た	堤	- 4	> ;	木	K	っ	⊅ >	ま	, 	5	۲	논	が	肴	荥	łj	0	0	2	0	1	1	4
ラ・	電		源		を		切	*	る		۲				b		大		þ]	0	0	0	0	1	0	1
IJ.	毛	糸の	IŦ	うう	产や	靴,	老 信	t v	τ	あと	L	ま	> -	ŧ :	t 2	ء د	رخ)3 有	Ź)	2	0	3	0	0	10	1 5
ル,	集			合			煙			簡			は			Ñ	ī		ß	Įų.	0	0	0	0	0	3	3
V.	家	は健	τ	あり	ナを	低	< L	, 柱	(t	太く	建	材々	<u> </u>	考	Ä.	る	ے ک	が	大切)	0	0	0	0	U	1	1
o.	家	Ø	外	か	~	は	軽	ĻΊ	€	Ø	苍	•	ŧ	11.	, 3	ر ×	v t	ì.	不	IJ	0	0	0	0	0	2	- 2
ヮ.	町	だ	け	の	救	ı İ	£ 7	舌	動	だ	け	で	1	ï	<	自	冶	£	ŧ)	0	1	1	0	0	0	2
1.	安	全	な	地	域	_	ς (D	移	転	を	掇	Į	h	L	て	Œ	Į	, V	`	0	0	0	1	0	0	1
	無						-											• • • • • • • • • • • • • • • • • •	2	5	16	18	23	21	3 1	43	152

[・]記入数が均一でないので記入意見数と家庭数とは一致しない